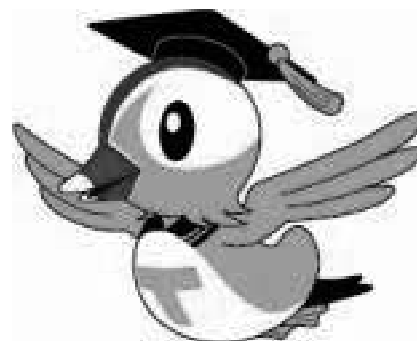


# 保健管理センター一年報

(平成27年度)



———— あなたの健康をアドバイスする ————

鳥取大学保健管理センター

No. 30

## まえがき

平成 27 年度の「保健管理センター年報」第 30 号をお届けいたします。平成 27 年度における鳥取大学保健管理センターの業務実施状況、健診データの概要と保健に関連した調査、研究報告などを主な内容としています。「保健管理センター報告書」第 21 号までは、2 年間の業務実施状況、健診データと調査・研究報告をまとめ「保健管理センター報告書」を作成していましたが、第 22 号からは前年度 1 年間の内容に改め、昨年から「保健管理センター年報」と改称し、今回で 2 号目の「保健管理センター年報」第 30 号になります。



鳥取地区の定期健康診断では、その必要性や日時等の広報に努め、健診学生数が平成 24 年度、25 年度、平成 26 年度と徐々に増加し、平成 27 年度は 4,063 人になりました。健康の自己管理意識が向上してきているように思います。平成 27 年度の学生相談（鳥取地区）は 1,030 件であり、平成 26 年度よりも 30 件増加し、相談件数は 1 番目に多い結果を示しました。米子地区の健診学生数は 992 人であり、健康相談・学生相談も増加傾向にあります。このような保健管理センター、米子分室利用者の増加は、学生の多様化と法人化後の職務の負担増が影響している可能性や、労働安全衛生法による職場環境、メンタルヘルスへの理解と関心が深まったことにも関係しているものと考えます。

結核、麻疹、風疹、インフルエンザなどの感染症対策、アルコールやタバコの健康障害に関する啓発教育、国立大学法人化以降の「労働安全衛生法」への対応、健康相談、学生相談の増加、大学における保健管理業務内容は確実に増大しています。また、救命救急のために自動体外式除細動器（AED）19 台（9 台を屋外に移設）を更新しました。

このような現状を鑑みますと、大学の健康管理における保健管理センターの役割は、より重要な位置を占めるものと思われます。昨今の成果主義、評価主義、グローバル化のような社会情勢の急速な変化をみましても、今後もその傾向は続く可能性が高いと考えています。保健管理センターといたしましても、学生及び職員に対する健康管理・健康教育への支援・指導を更に進める必要があると感じています。平成 25 年 4 月からカウンセラー（鳥取地区 2 日／週から 3 日／週、米子地区 8 時間／週から 12 時間／週）の勤務時間は昨年度と同様です。また、平成 25 年 8 月から看護師 1 名（米子分室、6 時間／日）を増員し、保健指導の充実に努めてきました。修学上支障が生じた学生に対する支援として、平成 26 年 4 月から新たに設置された学生支援センターとも密接に連携をとり、大学全体としての学生支援システムの充実に努める必要があると強く感じております。

国立大学法人化後の多忙な日常業務の中で、このような来所者の増加と保健管理業務の拡大に適切に対応するためには、「大学の保健管理体制をいかに整備し、いかにその責務を果たしていくべきか」という視点に立ち、保健管理センターの職員を適切に配置するとともに、保健管理センターの役割機能を検討する必要があると考えます。

今後とも保健管理センターへのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

鳥取大学 保健管理センター  
所長 中村 準一

## 目 次

まえがき

保健管理センター所長 中村 準一

### I 保健管理業務実施状況

1	学生数と職員数	1
(1)	学生数の推移	1
(2)	休学者数の推移	3
(3)	職員数	4
2	業務概要	5
	年間業務	5
3	健康診断	7
(1)	学生の定期健康診断	7
(2)	留学生特別健康診断	10
(3)	電離放射線健康診断	10
(4)	学生特殊健康診断	11
(5)	特別健康診断（結核診断検査）	12
4	健康相談の利用状況	13
(1)	学生・職員の健康相談	14
(2)	学生教育研究災害傷害保険の適用状況	18
5	精神健康部門	19
	平成27年度の学生相談・精神保健相談	19
6	特別事業報告	20
	健康セミナー・AED講習会・講演会の開催（平成27年度）	20
	広報誌「保健管理センターだより」発行	21



H27年度新入生健康診断風景



## II 調査及び研究報告

1	鳥取大学における学生相談の検討（平成25年度・第18報）	22
2	鳥取大学における休学者の検討（平成25年度・第18報）	25
3	鳥取大学における退学者の検討（平成25年度・第18報）	27
4	鳥取大学における留年学生の検討（平成25年度・第18報）	29
5	本学教職員の喫煙状況～構内全面禁煙以後の喫煙率の推移～	31
6	本学学生の骨量と基本的な生活習慣 （平成27年度中国四国保健管理研究集会報告書）	34
7	本学留学生に対するT-spot検査	39

## III 保健管理センターの業務内容その他

1	保健管理センターの業務内容について	43
2	保健管理センター関係職員	44
3	保健相談日程表	45
4	保健管理センター運営委員	46
5	鳥取大学保健管理センター規則	46
6	保健管理センター機構図	50
7	沿革	51



H 2 7 年度在学生健康診断風景

# I 保健管理業務実施状況

# 1. 学生数と職員数

## (1) 学生数の推移

平成27年5月1日現在の鳥取大学学生数は、6,426人（男4,095人、女2,331人）であった。（表1～3）

表1. 学部学生

学部	年次 学科・課程	1年次(15)			2年次(14)			3年次(13)			4年次(12)			5年次(11)			6年次(10以前)			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	合計
地域	地域政策	31	20	51	25	27	52	37	15	52	40	24	64							133	86	219
	地域教育	25	29	54	21	34	55	20	35	55	32	36	68							98	134	232
	地域文化	21	31	52	17	36	53	12	35	47	27	51	78							77	153	230
	地域環境	27	20	47	33	15	48	24	22	46	37	21	58							121	78	199
	小計	104	100	204	96	112	208	93	107	200	136	132	268							429	451	880
医	医	64	51	115	72	45	117	66	47	113	62	41	103	71	46	117	76	30	106	411	260	671
	生命	20	20	40	16	24	40	23	22	45	23	21	44							82	87	169
	保健	25	101	126	21	105	126	22	106	128	22	97	119							90	409	499
	小計	109	172	281	109	174	283	111	175	286	107	159	266	71	46	117	76	30	106	583	756	1339
工	機械				70	2	72	61	4	65	92	5	97							223	11	234
	知能情報				56	4	60	46	13	59	79	4	83							181	21	202
	電気電子				66	3	69	66	1	67	86	4	90							218	8	226
	物質				45	15	60	50	12	62	57	13	70							152	40	192
	生物応用				21	19	40	23	17	40	23	23	46							67	59	126
	土木				61	2	63	61	2	63	84	8	92							206	12	218
	社会開発システム				52	10	62	52	10	62	63	9	72							167	29	196
	応用数理				38	4	42	34	9	43	52	4	56							124	17	141
	機械物理系	110	8	118																110	8	118
	電気情報系	120	10	130																120	10	130
	化学バイオ系	65	41	106																65	41	106
	社会システム土木工学系	97	15	112																97	15	112
	小計	392	74	466	409	59	468	393	68	461	536	70	606							1730	271	2001
	農	生物資源環境	111	89	200	113	92	205	105	91	196	135	106	241							464	378
獣医											16	22	38	15	20	35	18	24	42	49	66	115
共同獣医		14	23	37	19	18	37	16	20	36										49	61	110
小計		125	112	237	132	110	242	121	111	232	151	128	279	15	20	35	18	24	42	562	505	1067
合計	730	458	1188	746	455	1201	718	461	1179	930	489	1419	86	66	152	94	54	148	3304	1983	5287	

表2. 大学院学生

研究科	年次	1年次(15)			2年次(14)			3年次(13)			4年次(12以前)			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	合計
地域学(修士)		12	15	27	22	17	39							34	32	66
医学系																
博士課程		28	15	43	28	17	45	33	19	52	33	20	53	122	71	193
博士前期(臨床心理2年)		3	4	7	4	6	10							7	10	17
博士前期(生命2年)		7	3	10	7	6	13							14	9	23
博士後期(生命3年)			1	1	2	1	3		2	2				2	4	6
博士前期(保健2年)		10	7	17	7	13	20							17	20	37
博士後期(保健3年)		1	4	5	1	2	3	5	11	16				7	17	24
博士前期(機能2年)		5	5	10	5	7	12							10	12	22
博士後期(機能3年)		3		3	5	3	8	5	4	9				13	7	20
工学																
博士前期(2年)		161	18	179	174	14	188							335	32	367
博士後期(3年)		6		6	12	1	13	39		39				57	1	58
農学(修士2年)		37	23	60	37	28	65							74	51	125
連合(博士3年)		11	8	19	15	11	26	33	12	45				59	31	90
合計		284	103	387	319	126	445	115	48	163	33	20	53	751	297	1048

表3. 研究生・聴講生等

学部等	研究生			聴講生等			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	合計
地域学部		8	8	16	29	45	16	37	53
医学部									
工学部	1	2	3	5	1	6	6	3	9
農学部	1	3	4	5	3	8	6	6	12
地域学研究科					3	3			3
医学系研究科	4	2	6	1		1	5	2	7
工学研究科	3		3				3		3
附属教育研究施設等	4		4				4		4
合計	13	15	28	27	36	63	40	51	91

\* 過年度学生は本来の在学年次に含まれる。

過去5年間の学生数の年次変化は、表4および図1に示す。図2の女子比率とは、学生数に占める女子学生の割合である。

**表4. 学生数の年次変化**

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
男子学生数	4,355	4,281	4,218	4,116	4,095
女子学生数	2,259	2,256	2,259	2,299	2,331
合 計	6,614	6,537	6,477	6,415	6,426
女子比率	34.2%	34.5%	34.8%	35.8%	36.2%

図1

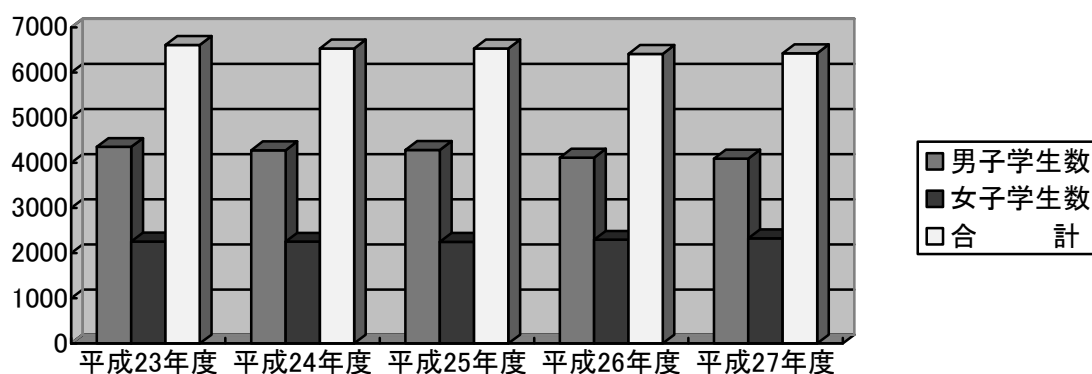
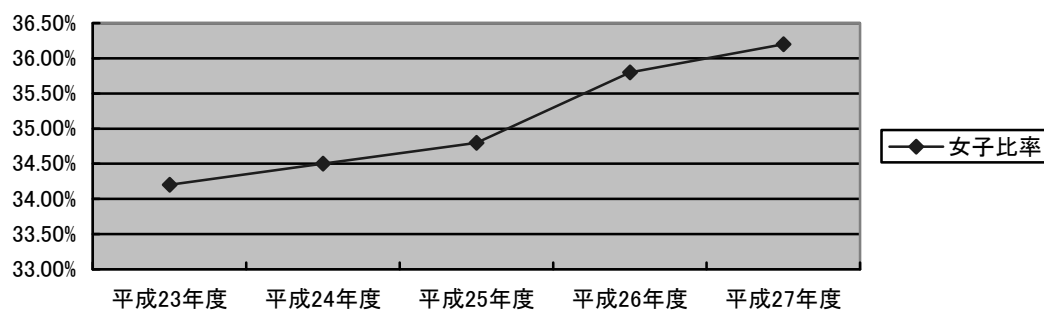


図2



## (2) 休学者数の推移

平成27年5月1日現在の鳥取大学休学者については、学部118人(男81人、女37人)、大学院49人(男33人、女16人)であった(表5、表6)。過去5年間の休学者数の推移を表7に示す。

**表5. 学部学生**

学部	1年次(15)		2年次(14)		3年次(13)		4年次(12)		5年次(11)		6年次(10)		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
地域		2			1		21	8					22	10	32
医	2	1	2	4	2	2	2	5	1				9	12	21
工	2		3		6	1	25	2					36	3	39
農			2	1	3	4	8	7			1		14	12	26
合計	4	3	7	5	12	7	56	22	1		1		81	37	118

**表6. 大学院学生**

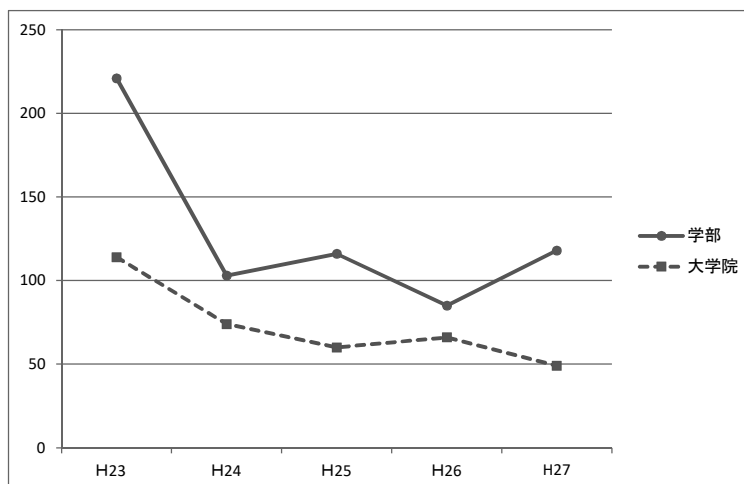
<修士・博士前期>

研究科	年次	1年次(15)		2年次(14)		3年次(13) 以前		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	合計
地域学研究科		1		2	1	3	1	6	2	8
医学系研究科				1	1	1		2	1	3
工学研究科				5		1		6		6
農学研究科				1		2	2	3	2	5
合計		1		9	2	7	3	17	5	22

<博士・博士後期>

研究科	年次	1年次(15)		2年次(14)		3年次(13)		4年次(12)		5年次(11) 以前		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
医学系研究科					3	3	4	1				4	7	11
工学研究科				1		1		2		5		9		9
連合農学研究科								2		1	4	3	4	7
合計				1	3	4	4	5		6	4	16	11	27

**表7. 休学者年次推移**





### (3) 職員数

平成27年5月1日現在の役職員総数は2,236人で、鳥取地区役職員は729人、米子地区役職員(医学部)は1,507人であった。(表8)

表8. 平成27年度鳥取大学役職員数

平成27年5月1日

区 分	学長	理事	監事	副学長	学長顧問	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	小計	事務職員	技術職員等	小計	計
事務局	1	5	2		1	1	2	3	1			16	143	15	158	174
				併任(7)								併任(7)				
				兼任(5)	1							兼任(5) 1				1
技術部														61	61	61
保健管理センター						1	1					2		2	2	4
附属図書館													13		13	13
附属学校部													4	1	5	5
附属小学校											18	18				18
附属中学校											23	23				23
附属特別支援学校											30	30				30
附属幼稚園											7	7				7
地域学部						29	28	7				64	9		9	73
附属芸術文化センター						5		1				6				6
附属子どもの発達・学習研究センター									2			2				2
医学部						56	41	31	85			213	99	27	126	339
附属病院						8	12	31	133			184	2	949	951	1135
大学院医学系研究科						7	4	2	7			20				20
大学院工学研究科						51	47	4	28			130				130
工学部													15		15	15
農学部						34	27	6	12			79	14		14	93
附属フィールドサイエンスセンター						3	1	1				5				5
附属菌類きのこ遺伝資源研究センター						4	1		1			6				6
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター									1			1				1
附属動物医療センター							1					1				1
大学院連合農学研究科						1						1				1
乾燥地研究センター						4	4		4			12	5		5	17
国際乾燥地研究機構							2					2				2
大学教育支援機構						8	13		1			22				22
総合ゲノム基盤センター						2	3		1			6				6
国際交流センター						2	4	1				7				7
生命機能研究支援センター						1	3		3			7	3		3	10
産学・地域連携推進機構						2	3	1				6				6
染色体工学研究センター						1			2			3				3
合 計	1	5	2	併任(7) 兼任(5)	2	220	197	88	281		78	874	307	1055	1,362	2,236

## 2. 業務概要

### 年間業務

平成27年度保健管理センター業務実施状況を表1に示す。

表1. 平成27年度保健管理センター業務実施状況

月	日	事業	対象者	内容
4	3.4 10 6 8~16 20~24 27~	入学時健康診断 (鳥取地区) (米子地区) 入学式 学生定期健康診断 (鳥取地区) (米子地区) 健康診断二次検査	新入生  新入生 2年次以上学部学生・ 大学院生・研究生 要再検査者(胸部X線)	健康診断票及び麻疹など予防接種歴に関するアンケート記入、 身体計測、尿検査、血圧測定、問診 胸部X線間接撮影、麻疹についての調査票回収 救護担当 問診票記入、身体計測、血圧測定、尿検査、診察 胸部X線間接撮影(学部4年生以上、大学院生(修士・博士) 研究生・医学部学生は全員) 胸部X線間接撮影に基づく要精密検査、病院紹介
5	8.11 11.13 15 ~19 25	電離放射線健康診断 (米子地区) (鳥取地区) 健康診断証明書発行開始 健康診断二次検査 電離放射線健康診断	学生 医学部生命科学科3年 学生(健診受診者) 要再検査者(胸部X線) 要再検査者	被曝量・自覚症状チェック、血液検査、皮膚症状等診察 および健診省略者、要再検査者、放射線業務可否の判定 Webにて平成27年度健康診断の結果開示 自動発行機より健康診断証明書発行 胸部X線間接撮影に基づく要精密検査、病院紹介 血液検査、診察、病院紹介
6	2.5 4.19 5~ 15 20.21.27 24 24.25	電離放射線健康診断 T-SPOT検査 健康診断二次検査 グループワークトレーニング T-SPOT検査 T-SPOT検査 T-SPOT検査	要再検査者 外国人留学生 要再検査者 (診察・血圧・尿検査) 学生 医学部医学科1年生 編入生・大学院生 医学部保健学科1年生	血液検査、診察、病院紹介 問診票記入、採血 血圧測定・尿検査・診察・問診・指導・病院紹介 ソーシャルスキルトレーニング 問診票記入、採血 問診票記入、採血 問診票記入、採血
7	1 1.2 4 ~10 22 22 22~ 27	T-SPOT検査 T-SPOT検査 T-SPOT検査 健康診断二次検査 採血実習 アルコールパッチテスト啓発 一斉メール アルコール健康障害の啓発 (年度末まで継続) グループワークトレーニング	編入生・大学院生 医学部保健学科1年生 医学部医学科1年生 要再検査者(血圧・尿検査) 医学部医学科4年生 学生 学生 学生	問診票記入、採血 問診票記入、採血 問診票記入、採血 血圧測定・尿検査・診察・問診・指導・病院紹介 採血実習介助 アルコールパッチテスト週間を設け、メールで啓発 アルコールパッチテスト・体質別指導 ソーシャルスキルトレーニング
8	1 5~31 8.9 26~28	医学部オープンキャンパス T-SPOT検査二次検査 オープンキャンパス 第45回中国・四国大学 保健管理研究集会	来学者 外国人留学生 (要精密検査対象者) 来学者 中国・四国大学保健管理 施設教職員	救護担当 T-SPOT検査における要精密検査対象者の病院紹介等 救護担当 徳島大学、幹事会・総会・一般研究発表・特別講演・ 教育講演・看護分科会等
9	2 5 9.10 11 24.25 ~30	骨量測定 医学部学士編入試験 第53回全国大学保健管理 研究集会 国立大学法人等保健管理施設 協議会総会 A0入試 抗体価検査・ワクチン接種 証明書回収 健康診断問診票ほか 各種提出書類の整理	教職員 受験生 全国大学保健管理施設 教職員 保健管理施設の所長・教員 受験生 医学部保健学科1年生 学生、教職員	超音波踵骨測定装置を使用した骨量測定、生活指導等 救護担当 岩手大学、総会・研究発表・基調講演・シンポジウム等 秋田大学、総会・事業報告・事業計画等 救護担当 麻疹・風疹・ムンプス・水痘・B型肝炎抗原抗体検査結果 およびワクチン接種証明書の回収および指導 学生健康診断票、健康相談管理記録、麻疹調査票 抗体検査結果など各種提出書類整理

10	1～3 7 7.14 8.15 20  17.18 24 26.28 31	禁煙のススメ月間 留学生オリエンテーション T-SPOT検査(再検査) 電離放射線健康診断 (米子地区) T-SPOT検査(再検査) 留学生健康診断  A0入試 医学部学士編入試験 骨量測定 オープンキャンパス米子地区	学生、教職員 留学生 医学部保健学科1年生 医学部保健学科検査3年生  医学部医学科1年生 外国人留学生  受験生 受験生 学生 来学者	禁煙相談 保健管理センターオリエンテーション 問診票記入、採血 被曝量・自覚症状チェック、血液検査、皮膚症状等診察 および健診省略者、要再検者、放射線業務可否の判定 問診票記入、採血 問診票記入、胸部X線直接撮影、尿検査、血圧測定、診察 T-SPOT検査 救護担当 救護担当 超音波踵骨測定装置を使用した骨量測定、生活指導等 救護担当
11	2.4 4  6 6.13.20 15 19 30 24	骨量測定 留学生健康診断  救急処置・応急手当講習会 グループワークトレーニング 推薦入試 電離放射線健康診断 (米子地区) (鳥取地区) 保健管理センター運営委員会	学生 外国人留学生  教職員 学生 受験生  医学部大学院生 学生 運営委員	超音波踵骨測定装置を使用した骨量測定、生活指導等 問診票記入、胸部X線直接撮影、尿検査、血圧測定、診察 T-SPOT検査 救急処置、AEDを用いた応急手当の講習 ソーシャルスキルトレーニング 救護担当 被曝量・自覚症状チェック、血液検査、皮膚症状等診察 および健診省略者、要再検者、放射線業務可否の判定 保健管理センター運営について報告・協議
12	1  ～1 4.11.18.25 8 9 12 14～ 15 17 22～	インフルエンザ・ノロウイルス等の予防教育 ～1 特殊健康診断 グループワークトレーニング 電離放射線健康診断 (鳥取地区) 骨量測定 キャンパス駅伝 健康診断二次検査 特殊健康診断 アルコールパッチテスト啓発 一斉メール 22～ 呼気CO濃度測定 次年度健康診断計画	学生・教職員  学生(有機溶剤使用) 学生 学生 教職員 学生・教職員 要再検査者 (BMI25以上) 学生(有機溶剤使用) 1年生 4年生喫煙者 新入生、在学生	HP、掲示等で、インフルエンザ、ノロウイルス等の注意喚起 (流行状況に応じて、その後も継続) 問診票回収、スクリーニング ソーシャルスキルトレーニング 被曝量・自覚症状チェック、血液検査、皮膚症状等診察 および健診省略者、要再検者、放射線業務可否の判定 超音波踵骨測定装置を使用した骨量測定、生活指導等 救護担当 身長・体重・体脂肪等測定、血圧測定、骨量測定、呼気CO濃度測定、食生活指導、カウンセリング等 要検査学生の診察 アルコールパッチテスト及び指導の実施 呼気CO濃度測定、アルコールパッチテスト、骨量測定 次年度入学時及び春季定期健康診断実施についての計画
1	～8 8.15 16.17 ～20	呼気CO濃度測定 グループワークトレーニング 大学入試センター試験 健康診断二次検査	4年生喫煙者 学生 受験生 要再検査者 (BMI25以上)	呼気CO濃度測定、アルコールパッチテスト、骨量測定 ソーシャルスキルトレーニング 救護担当 身長・体重・体脂肪等測定、血圧測定、骨量測定、呼気CO濃度測定、食生活指導、カウンセリング等
2	1～5 3 5～7 10 16～ 19.26 25 「センターだより」発行	健康診断二次検査 医学部実習介助 推薦入試 中国・四国地方部会 保健・看護分科会運営委員会 留学生健康診断二次検査 グループワークトレーニング 一般入試前期日程試験 「センターだより」発行	要再検査者 (BMI16以下) 医学部医学科学生 受験生 保健・看護分科会運営委員 外国人留学生 (要精密検査対象者) 学生 受験生 学生・教職員・全国大学	身長・体重・体脂肪等測定、骨量測定、呼気CO濃度測定、診察 食生活指導、カウンセリング等 共用試験CBTにおける救護 救護担当 保健看護分科会の事業報告、事業計画、平成28年度情報交換会計画・HP担当報告等協議 健康診断における要精密検査対象者の再検査・病院紹介等 ソーシャルスキルトレーニング 救護担当 保健関係の資料・健康に関する情報提供等
3	1.2 2 ～7 7.9.10 12 18 全国大学保健管理協会 中国・四国地方部会 幹事会 保健管理センター報告書発行	健康測定 医学部実習介助 留学生健康診断二次検査 獣医師免許申請時の健康診断 一般入試後期日程試験 卒業式 全国大学保健管理協会 中国・四国地方部会 幹事会 保健管理センター報告書発行	大学院生 医学部医学科学生 外国人留学生 (要精密検査対象者) 受験者 卒業生 地方部会世話人・幹事 保健関係機関	身長・体重・体脂肪等測定、骨量測定、呼気CO濃度測定、診察 食生活指導、カウンセリング等 共用試験CBT再試における救護 健康診断における要精密検査対象者の再検査・病院紹介等 診察、獣医師免許申請に要する健康診断書発行 救護担当 救護担当 メール審議にて地方部会の事業報告、事業計画、平成28年度保健管理研究集会等の協議 センターの紹介・利用方法・利用状況・研究報告等

※毎月1回労働安全衛生委員会

### 3. 健康診断

#### (1) 学生の定期健康診断

<鳥取地区>

表1. 健康診断受診率（平成27年度）

学部・大学院 学科	地域	医 生・保	工	農 生物環境	農 獣医	大学院					合計
						地域（修）	工（修）	農（修）	工（博）	連（博）	
対象者数	880	166	2001	842	225	66	367	125	58	90	4820
受診者数	788	162	1686	752	159	33	312	109	11	28	4040
受診率（%）	89.5	97.6	84.3	89.3	70.7	50.0	85.0	87.2	19.0	31.1	83.8

項目別受診率

表2. X線検査受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	地域	医 生・保	工	農 生物環境	農 獣医	大学院					合計
						地域（修）	工（修）	農（修）	工（博）	連（博）	
対象者数	472	166	1072	441	152	66	367	125	58	90	3009
受診者数	402	162	917	399	93	33	312	108	11	27	2464
受診率（%）	85.2	97.6	85.5	90.5	61.2	50.0	85.0	86.4	19.0	30.0	81.9

注) 上記に加えて、学部2・3年生の中で、今年度中に実習や海外渡航に行く予定の学生（409人）も胸部X線を実施した。

表3. 尿検査受診結果（平成27年度）

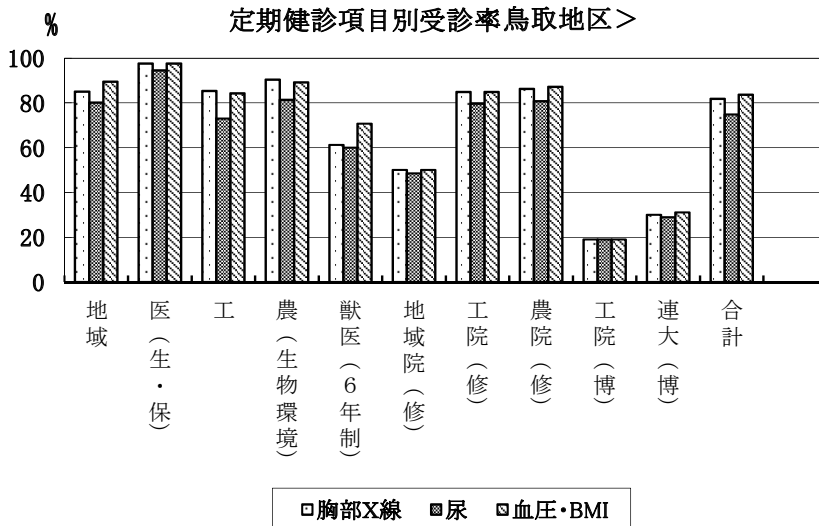
学部・大学院 学科	地域	医 生・保	工	農 生物環境	農 獣医	大学院					合計
						地域（修）	工（修）	農（修）	工（博）	連（博）	
対象者数	880	166	2001	842	225	66	367	125	58	90	4820
受診者数	707	157	1461	686	135	32	293	101	11	26	3609
受診率（%）	80.3	94.6	73.0	81.5	60.0	48.5	79.8	80.8	19.0	28.9	74.9

表4. 血圧測定受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	地域	医 生・保	工	農 生物環境	農 獣医	大学院					合計
						地域（修）	工（修）	農（修）	工（博）	連（博）	
対象者数	880	166	2001	842	225	66	367	125	58	90	4820
受診者数	788	162	1686	752	159	33	312	109	11	28	4040
受診率（%）	89.5	97.6	84.3	89.3	70.7	50.0	85.0	87.2	19.0	31.1	83.8

表5. BMI受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	地域	医 生・保	工	農 生物環境	農 獣医	大学院					合計
						地域（修）	工（修）	農（修）	工（博）	連（博）	
対象者数	880	166	2001	842	225	66	367	125	58	90	4820
受診者数	788	162	1686	752	159	33	312	109	11	28	4040
受診率（%）	89.5	97.6	84.3	89.3	70.7	50.0	85.0	87.2	19.0	31.1	83.8



<米子地区>

表1. 健康診断受診率（平成27年度）

学部・大学院 学科	学部		大学院								合計
	生命・保健	医	生命(修)	機能(修)	保健(修)	臨心(修)	生命(博)	機能(博)	保健(博)	医(博)	
対象者数	502	671	23	22	37	17	6	20	24	143	1,465
受診者数	417	359	18	16	17	17	4	7	2	1	858
受診率(%)	83.1	53.5	78.3	72.7	45.9	100.0	66.7	35.0	8.3	0.7	58.6

項目別受診率

表2. X線検査受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	学部		大学院								合計
	生命・保健	医	生命(修)	機能(修)	保健(修)	臨心(修)	生命(博)	機能(博)	保健(博)	医(博)	
対象者数	502	671	23	22	37	17	6	20	24	143	1,465
受診者数	417	359	18	16	17	17	4	7	2	1	858
受診率(%)	83.1	53.5	78.3	72.7	45.9	100.0	66.7	35.0	8.3	0.7	58.6

表3. 尿検査受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	学部		大学院								合計
	生命・保健	医	生命(修)	機能(修)	保健(修)	臨心(修)	生命(博)	機能(博)	保健(博)	医(博)	
対象者数	502	671	23	22	37	17	6	20	24	143	1,465
受診者数	284	234	15	11	16	15	3	3	2	1	650
受診率(%)	63.1	39.8	65.2	50.0	43.2	88.2	50.0	15.0	8.3	0.7	44.4

表4. 血圧測定受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	学部		大学院								合計
	生命・保健	医	生命(修)	機能(修)	保健(修)	臨心(修)	生命(博)	機能(博)	保健(博)	医(博)	
対象者数	502	671	23	22	37	17	6	20	24	143	1,465
受診者数	417	359	18	16	17	17	4	7	2	1	858
受診率(%)	83.1	53.5	78.3	72.7	45.9	100.0	66.7	35.0	8.3	0.7	58.6

表5. BMI受診結果（平成27年度）

学部・大学院 学科	学部		大学院								合計
	生命・保健	医	生命(修)	機能(修)	保健(修)	臨心(修)	生命(博)	機能(博)	保健(博)	医(博)	
対象者数	502	671	23	22	37	17	6	20	24	143	1,465
受診者数	417	359	18	16	17	17	4	7	2	1	858
受診率(%)	83.1	53.5	78.3	72.7	45.9	100.0	66.7	35.0	8.3	0.7	58.6

表6 健康診断二次健診受診率(平成27年度)

<鳥取地区>

平成27年5月～28年1月に実施

健診項目	一次健診 受診者数	呼出した検査数値 所見・症状など	二次健診 対象者数(人)	要精査率(%)	二次健診 受診者数(人)	二次健診 受診率(%)
胸部レントゲン異常	2897	要精密検査	13	0.4%	13	100.0%
血圧	4063	150/95以上	116	2.9%	46	39.7%
		140～149/90～94	195	4.8%	52	26.7%
尿検査	3627	糖 +-以上	10			
		潜血 1+以上	38			
		蛋白 1+以上	33			
		計(延べ)	81	2.2%	44	54.3%
診察	4063	所見あり	34	0.8%	27	79.4%
BMI	4063	25以上	481	11.8%	68	14.1%
計	4063		920	22.6%	250	27.2%

<米子地区>

平成27年6月に実施

健診項目	一次健診 受診者数	呼出した検査数値 所見・症状など	二次健診 対象者数	要精査率(%)	二次健診 受診者数	二次健診 受診率(%)
胸部レントゲン異常	858	要精密検査	1	0.30%	1	100.0%
血圧	858	140/90以上	12	1.4%	8	66.7%
尿検査	650	糖 +-以上	2		0	
		潜血 +-以上	11		6	
		蛋白 1+以上	2		0	
		ウロビリ 1+以上	8		1	
		計	23	3.5%	9	39.1%
診察	858					
		計	0	0.0%	0	0.0%
BMI	858	30以上	12	1.40%	5	41.70%
		16以下	5	0.60%	5	100.00%
		計	17	2.0%	10	58.8%
計	858		53	6.2%	28	52.8%

## (2) 留学生特別健康診断

平成 27 年度の留学生特別健康診断は、平成 27 年 6 月 4 日・19 日に T-SPOT 検査、10 月 20 日・11 月 4 日に留学生健康診断及び T-SPOT 検査を実施した。

T-SPOT 検査受診者は延べ 117 人、留学生健康診断受診者は 106 人であった。

有所見者率(延)は、T-SPOT 検査 16.2%、胸部 X 線検査 0%、血圧 6.6%、尿検査 4.7% であり、対象者に再検査や病院紹介を行った。

## (3) 電離放射線健康診断

電離放射線に係る健康診断で、放射線に関わる業務を行うにあたり、新規に登録された場合は、問診票による調査・評価と電離放射線健康診断(血液、皮膚等の検査)を実施している。

また、登録継続の場合、前年 1 年間の実行線量が 5 mSv を超えず、かつ当該年度の予想される実行線量も 5 mSv を超えるおそれのない者については、問診票による調査・評価を行い、医師が必要と認めた場合を除き血液、皮膚等の検査は省略している。

平成 27 年度電離放射線健康診断

(鳥取地区)

平成 27 年 5 月 11・13 日

新規登録者 97 人に血液、皮膚等の検査を実施。

(うち 8 人に再検査等を実施。)

継続登録者 8 人に血液、皮膚等の検査を実施。

平成 27 年 11 月 30 日・12 月 8 日

新規登録者 3 人に血液、皮膚等の検査を実施。

(うち 1 人に再検査等を実施。)

継続登録者 9 人に血液、皮膚等の検査を実施。

(うち 2 人に再検査等を実施。)

(米子地区)

平成 27 年 5 月 9・11・19 日 新規登録者 19 人に血液、皮膚等の検査を実施。

平成 27 年 10 月 7 日・14 日 新規登録者 40 人に血液、皮膚等の検査を実施。

平成 27 年 11 月 19 日 新規登録者 3 人に血液、皮膚等の検査を実施。

#### (4) 学生特殊健康診断

有機溶剤又は特定化学物質を扱う研究室（作業環境測定を実施している研究室）に所属する学生を対象に、特殊健康診断調査票でスクリーニングを行い、自覚症状のある学生に対して、取扱物質の使用を始めてからその物質を原因とした症状である可能性が高い場合、診察・医療機関の紹介等を行っている。

平成 27 年度特殊健康診断調査票の提出 165 人

自覚症状あり 1 人(0.6%) →診察にて保護具使用等について指導

自覚症状なし 164 人 (99.4%)

調査票の質問項目の集計〔作業環境等の状況について〕

1. 取り扱っている物質の成分と有害性について 十分に認知している (95.8%) 認知が不十分である (4.2%)
2. 密閉設備または局所排気装置について 適切に使用している (100.0%) 適切に使用できていない (0.0%)
3. 保護具（呼吸用保護具、保護メガネ、ゴム手袋等）の着用について 適切に着用している (98.2%) 適切に着用できていない (1.8%)
4. 作業中での危険性の有無について（安全面・健康面） 作業中に安全面・健康面で危険を感じたことはない (97.0%) 作業中に安全面・健康面で危険を感じたことはある (3.0%)



(5) 特別健康診断（結核診断検査）

医学部医学科・保健学科学生を対象に、T-SPOT 検査を実施している。実習（研究）において患者等との接触により感染の可能性が高いという理由から、結核の感染を事前にチェックし、二次感染を防ぐことを目的としている。

対象者		実施日	人数	再検査等について
①	医学科 1 年生 113 名	6 月 22 日（月）	27	病院紹介 1 名
		23 日（火）	28	
		29 日（月）	27	
		7 月 6 日（火）	31	
②	大学院 1 年生、および編入学生 23 名	6 月 26 日（金）	23	病院紹介 1 名
③	①及び②の未受験者 12 名	6 月 26 日（金）	12	
④	保健学科 1 年生 121 名	6 月 24 日（水）	26	再検査 1 名
		25 日（木）	27	
		7 月 1 日（水）	32	
		2 日（木）	36	

## 4. 健康相談の利用状況

### (1) 学生・職員の健康相談

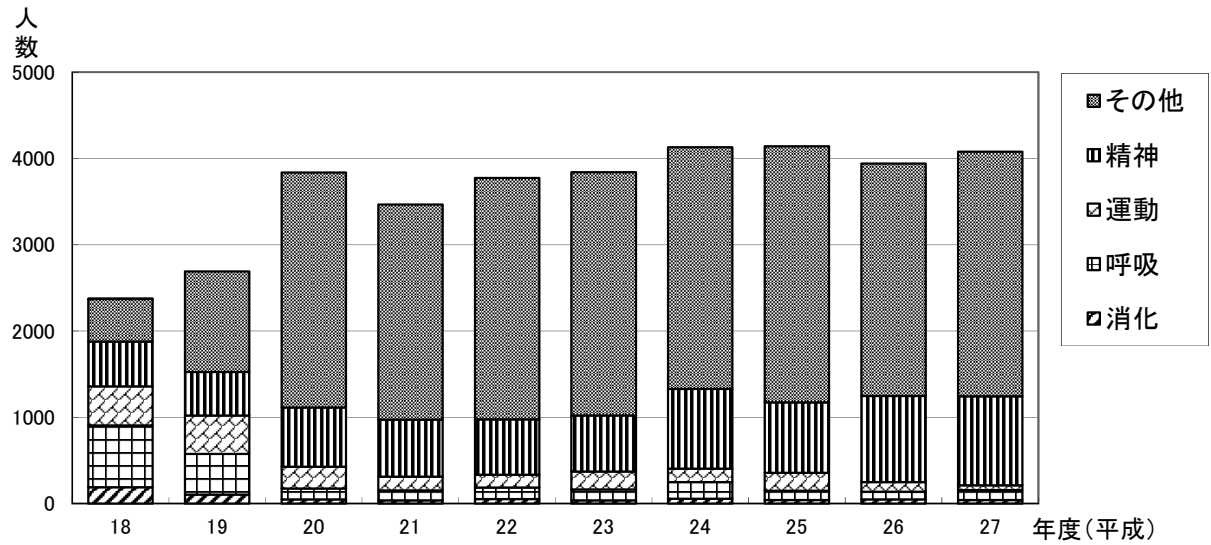


図1. 鳥取地区学生健康相談者数の推移(平成18年度～平成27年度)

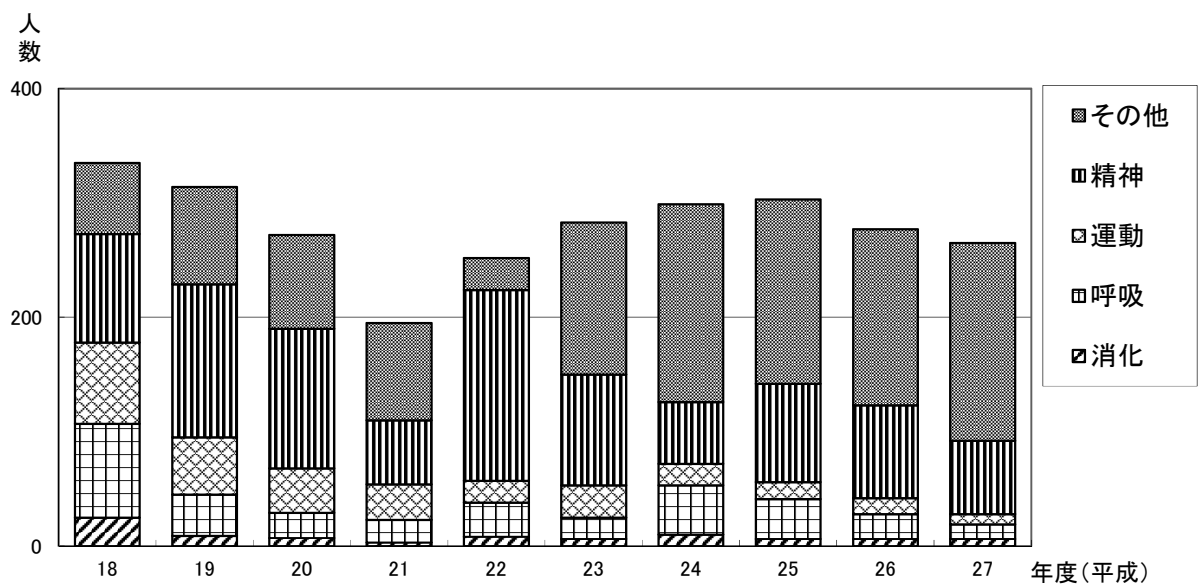


図2. 鳥取地区職員健康相談者数の推移(平成18年度～平成27年度)

平成27年度 健康相談集計表(鳥取地区学生)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
健康相談	消化器	2	4	9	6	1	2	5	4	1	4	3	3	44
	呼吸器	6	12	19	11		1	20	20	12	4	8	2	115
	循環器	1		3										4
	代謝内分泌			2										2
	精神相談	67	87	80	103	52	59	102	107	111	91	90	81	1030
	外科	13	2	11	7			5		5	3	6	3	55
	皮膚科	4	2	15	8		1	4	2	4	2			42
	耳鼻科	1		2							1	1		5
	眼科			1										1
	婦人科	2		1		1		1	2		3		1	11
	神経系疾患	1	1	6	1				1	2	3			15
	その他	17	33	50	41	22	22	88	87	44	27	22	47	500
	健康診断書			3		2	1	1	2			1		10
	保健業務	370	312	257	237	163	183	183	109	105	113	85	129	2246
計	484	453	459	414	241	269	409	334	284	251	216	266	4080	
定期健康診断	一次	4063												4063
	二次	7	36	72	53	7	5	1	2		70	20	9	282
臨時健診	部活動													0
	留学生			24				63	43					130
	放射線従事者		106	1					2	11				120
	抗体価検査			53	68									121
	計	4070	142	150	121	7	5	64	47	11	70	20	9	4716
合計	4554	595	609	535	248	274	473	381	295	321	236	275	8796	
保健業務	急患対応	1		3	2			1	2			1		10
	相談予約	39	48	45	50	27	26	21	18	15	16	14	13	332
	保健指導	146	179	134	110	75	83	103	60	65	58	32	49	1094
	病院紹介	23	16	20	23	24	16	15	7	8	17	18	54	241
	休養室利用	5	17	14	8	4	4	3	8	7	11	6	5	92
	予防接種・抗体価検査に関する	134	36	28	22	9	15	31	12	9	11	12	5	324
	救急バッグなど貸出		3	1			1	5				2		12
	その他	22	13	12	22	24	38	4	2	1			3	141
	計	370	312	257	237	163	183	183	109	105	113	85	129	2246
検査	血圧	4064	35	44	29	3	8	64	45		69	11	6	4378
	尿	3575	23	39	44	5	1	64	43		2	4	9	3809
	血液		105	25				63	32	2				227
	ECG			1										1
	体脂肪										68	9		77
	パッチテスト		5	2	141	8		1		24	19	3	3	206
	骨量							58	59	4	70	9	4	204
	X線撮影	2897						63	43					3003
	視力							3	3			2	4	12
	聴力					1		1						2
	その他									4	19	2	1	26
計	10536	168	111	214	17	9	317	225	34	247	40	27	11945	
治療	予薬	17	20	31	23	3	3	30	31	22	20	21	9	230
	注射													0
	処置	31	23	47	37	15	23	25	28	24	25	20	24	322
	診断書・紹介状	9	9	4	2	8	1	3	2	4	2	9	23	76
	その他	1	10	11	6	5		6		1	8	6		54
計	58	62	93	68	31	27	64	61	51	55	56	56	682	
健康診断書	自動発行機発行枚数		1044	508	433	223	110	70	43	32	62	54	656	3235
	センター発行枚数	0	1	7	10	26	0	1	3	0	0	6		54
	計	0	1045	515	443	249	110	71	46	32	62	60	656	3289

平成27年度 健康相談集計表(鳥取地区職員)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
健康相談	消化器	1	1	1	1		1		1					6
	呼吸器	2		2	1			1	2	3	1		1	13
	循環器											1		1
	代謝内分泌													0
	精神相談	10	7	7	9	2	5	2	3	7	4	5	3	64
	外科	3	2		1				1		1	1		9
	皮膚科		3	3	1	2	1	1			1			12
	耳鼻科												1	1
	眼科			1										1
	婦人科		2		1									3
	神経系疾患		1	1										2
	その他	1	1					6		2	3	1	1	2
保健業務	12	10	14	9	15	9	8	11	13	11	10	14	136	
合計		29	27	29	23	19	22	12	20	26	19	18	21	265
保健業務	急患対応	1							1				1	3
	相談予約	3	4	1	2	1	2		3	2	3	2	2	25
	保健指導	2	2	3	2	3	3	4	3	4	5	5	4	40
	病院紹介	2	1	1	3	1	1	1	2	2	3	2	3	22
	休養室利用	2	3	4	2	1	2	1		5		1	4	25
	予防接種・抗体価検査に関すること													0
	救急バッグなど貸出	2		5		9	1	2						19
	その他								2					2
計	12	10	14	9	15	9	8	11	13	11	10	14	136	
検査	血圧	2	2	3	4	3			1		1			16
	血液													0
	ECG													0
	骨量						6		1	3				10
	パッチテスト													0
	その他													0
	計	2	2	3	4	3	6	0	2	3	1	0	0	26
治療	予薬	3	4	4	3		1	1	3	3	3		1	26
	注射													0
	処置	2	3	1	1	2	1	4	2		2		2	20
	診断書・紹介状								1			1		2
	その他							1						1
計	5	7	5	4	2	2	6	6	3	5	1	3	49	

平成27年度 健康相談集計表(米子地区学生)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体	
健康相談	消化器	8	3	4	4	2	4	6	4	13	7	5	1	61	
	呼吸器	14	8	9	15	4	2	11	20	20	8	2	4	117	
	循環器		1	2	1			3		5	1	1	6	20	
	代謝内分泌	1							1					2	
	精神相談	6	9	14	23	11	15	17	17	23	12	19	16	182	
	外科	6	3	8	1	1	2	2	9	4	1	1	3	41	
	皮膚科	4	4	6	5	3	11	2		1	1	2		39	
	耳鼻科			2					1	1	2	3		3	12
	眼科									1		1			2
	婦人科	6	2	11	7	1		8	5	4	2				46
	神経系疾患	3	2	1	2			2	2	5	3	6	4		30
	その他	2	7	1	7	3	1	1	2	6	4	3	2	39	
	健康診断書	8	16	6	11	6	2	8	4	2			3	1	67
	保健業務	144	86	149	122	66	112	184	136	142	82	91	95	1409	
	計	202	141	213	198	97	151	245	205	225	128	131	131	2067	
証明書発行枚数	32	33	9	38	9	2	15	5	3	5	3	3	157		
定期健康診断	一次	853	91	38	6	1		2	1					992	
	二次		2	45	6			2		1				56	
臨時健診	部活動								1					1	
	留学生													0	
	放射線従事者		35					40	3					78	
	抗体価検査													0	
計	853	128	83	12	1		44	5	1				1127		
合計	1055	269	296	210	98	151	289	210	226	128	131	131	3194		
保健業務	急患対応	1	1		2		2	6	1		2			15	
	相談予約	8	11	19	27	15	17	21	19	25	16	22	18	218	
	保健指導	55	40	66	46	19	31	62	54	63	29	20	20	505	
	病院紹介	18	4	17	9	4	1	13	5	10	9	10	2	102	
	休養室利用	5	7	8	4	2	4	7	6	12	4	0	9	68	
	予防接種・抗体価検査に関すること	25	9	14	9	13	44	56	18	9	3	5	14	219	
	救急バッグなど貸出							8	2					10	
	その他	29	14	26	24	13	11	11	28	20	23	20	32	251	
	計	141	86	150	121	66	110	184	133	139	86	77	95	1388	
検査	血圧	831	6	12	5		2	6	5	4	4	3	11	889	
	尿	30	92	16	9	1		4	1					153	
	血液		19	104	43			49	3					218	
	ECG			1					0	1		1		3	
	体脂肪		1	12	2	3	2	20	1				1	42	
	パッチテスト	16	13					8	4					41	
	X線撮影	830		28										858	
	視力													0	
	聴力				1	1								2	
	その他	14	14	6	2		2	28	4	3		2		75	
計	1721	145	179	62	5	6	115	18	8	4	6	12	2281		
治療	予薬	18	11	14	19	4	12	14	33	34	18	11	11	199	
	注射	2	1	1	1					2				7	
	処置	8	11	12	8	6	13	5	10	5	4	4	2	88	
	診断書・紹介状	3		1	2			8	2	3	3	2	2	26	
	その他													0	
計	31	23	28	30	10	25	27	45	44	25	17	15	320		
健康診断書	自動発行機発行枚数													0	
	センター発行枚数	32	33	9	38	9	2	15	5	3	5	3	3	157	
	計	32	33	9	38	9	2	15	5	3	5	3	3	157	

平成27年度 健康相談集計表(米子地区職員)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体	
健康相談	消化器			2			2					1	0	5	
	呼吸器	1			2	1	3			7		5	3	22	
	循環器													0	
	代謝内分泌			2										2	
	精神相談								1					1	
	外科				1						2		1	4	
	皮膚科				1			2	1			1		0	5
	耳鼻科	1						1			1			0	3
	眼科														0
	婦人科												1		1
	神経系疾患	1						1	1	2	1				6
	その他				2	1	1					2		1	7
	健康診断書														0
保健業務	12	3	12	12	4	9	3	6	16	3	14	5	99		
合計	15	3	16	18	6	17	6	10	27	6	22	9	155		
保健業務	急患対応													0	
	相談予約					1								1	
	保健指導	5	1	5	8	1	9	2	5	11	3	10	3	63	
	病院紹介			2	1				1	1				5	
	休養室利用			2		1		1					2	6	
	予防接種・抗体価検査に関すること													0	
	救急バッグなど貸出	1		2								1		4	
	その他	6	2	1	3	1	0	0	0	4	0	3	0	20	
計	12	3	12	12	4	9	3	6	16	3	14	5	99		
検査	血圧			2									1	3	
	尿													0	
	血液													0	
	ECG													0	
	体脂肪								1					1	
	パッチテスト													0	
	X線撮影													0	
	視力													0	
	聴力													0	
	その他								2					2	
計	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	1	6		
治療	予薬	3	1		5	1	8	2	2	10	1	8	3	44	
	注射			4										4	
	処置	1			3		1		1	1	3	2		12	
	診断書・紹介状													0	
	その他													0	
計	4	1	4	8	1	9	2	3	11	4	10	3	60		

## (2) 学生教育災害傷害保険の適用状況

### 平成 27年度 学生教育災害傷害保険を適用した事故発生件数

単位 (件)

区分	治療日数				計	左のうち入院を伴った数	備考
	0~9日	10~19日	20~29日	30日以上			
正課中	3	1	0	0	4		
臨床実習中					2		
学校行事中	0	1	0	1	2		
通学中	1	0	1	0	2		
課外活動中	1	1	4	2	8	6	対象外 6
	5	3	5	3	18	6	6

- 1 死亡事故 はなし。
- 2 支払い保険金の内訳
  - \* 医療保険金 16件 (内:再請求で入院のみ 1件)
  - \* 接触感染予防保険金 2件

### 平成 27年度 学生教育研究災害傷害保険金支払い状況

発生区分	クラブ名等	病名	支払金額 (円)
正課中	医療実習 3件	針刺し事故・左手掌裂傷	36,000
〃	理系実験実習 1件	右示指 PIP 関節内開放骨折	15,000
〃	その他 2件	左中指骨性マレット指他	21,000
学校行事中	開学記念行事 1件	左足腓骨骨折	50,000
〃	バレー大会 1件	左アキレス腱不全断裂	30,000
通学中	自転車 2件	顎裂傷・左腕橈骨骨折	36,000
課外活動中	野球部 1件	下顎骨骨折	90,000
〃	バレー部 2件	右アキレス腱断裂他	164,000
〃	アメフト部 2件	コンパートメント症候群他	140,000
〃	ラグビー部 1件	左膝前十字靭帯損傷 (再請求)	12,000
〃	バスケット部 1件	右膝内側半月板損傷	154,000
〃	バドミントン部 1件	左アキレス腱断裂	62,000
計	18件		810,000

1. 平成 27 年度の保険請求件数は 18 件。  
内訳は正課中 6 件 (接触感染予防 2 件) ・学校行事中 2 件 ・通学中 2 件 ・課外活動中 8 件であった。また、治療日数不足・慢性疾患等の対象外が 6 件あった。
2. 学研災に加入していても、届け出の方法がわからなかったり、保険請求を忘れていている者がいる場合がある。

## 5. 精神健康部門

### 平成27年度の学生相談・精神保健相談

中村 準一

#### はじめに

大学における学生相談・精神保健相談の役割は、主に学生のメンタルヘルスの保持・増進に関係しており、ここ最近とくに大学保健管理活動の中でも重要な位置を占めている。大学におけるこれらの保健活動は、成長過程にある学生の人格形成を援助し、社会性、独自性を育む教育活動の一環として捉える必要があると思われる。

本節では平成27年度の学生相談・精神保健相談について鳥取地区と米子地区に分けて報告する。鳥取地区では専任の精神科医1人、学校医1人(週2時間)、非常勤臨床心理士1人(4日/週 月・木4時間、火・金8時間)、米子地区では学校医3人(各学校医 月1時間)、非常勤臨床心理士1人(2日/週 各6時間)で行われている。

#### 1. 学生相談

##### 1) 鳥取地区

平成27年度の月別来談者数を図1に示した。平成27年度は12月の111人が最も来談者数が多く、8月が52人と1番少なく、合計1,030人であり、平成26年度の1,000人と比べて30人増加していた。

##### 2) 米子地区

平成27年度の月別来談者数を図2に示した。平成27年度は7、12月の23人が最も来談者が多く、4月が6人と1番少なく、合計182人(平成26年度175人)であった。

##### 3) 鳥取地区と米子地区

平成27年度の両地区の学生相談来談者数は、計1,212人であった。

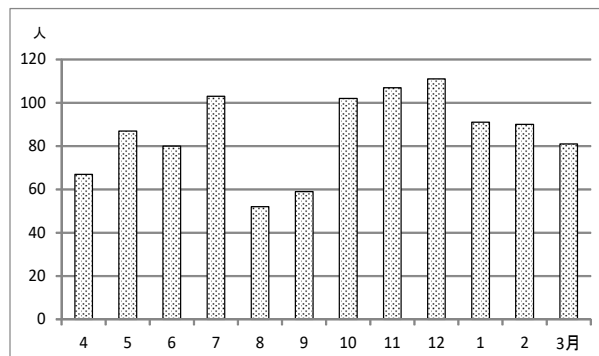


図1 鳥取地区の月別来談者数

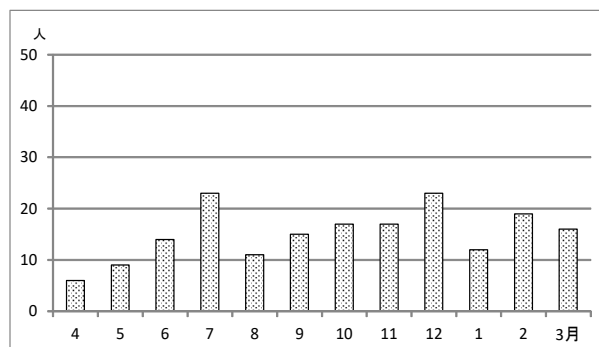


図2 米子地区の月別来談者数

#### 2. 職員相談

職員相談は、主に学生対応に関することが多く、鳥取地区64人、米子地区1人であり、両地区65人であった。

#### おわりに

学生相談・精神保健相談においては、学生の悩みを相談員のみで援助することが難しいケースも少なくない。学生にとってより望ましい状況・環境になるのであれば、プライバシーを尊重し学生の了解を取り、家族、友人や教職員と連携し、適切に対応することが大切であると思われる。



## 6. 特別事業報告

### 健康セミナー・AED講習会・講演会の開催（平成27年度）

中村準一 三島香津子

#### I. 健康セミナー

##### 1. 健康セミナーの経緯について

昭和48年に健康増進セミナーを開催し、早いもので43年経った。平成8年度以前の数年間は、大山の中国・四国国立大学共同研修所に宿泊し「大山スキーセミナー」をおこなってきたが、平成9年度からは日々欠かすことのできない身近な「食」をテーマとして、健康増進セミナーを開催することにした。学生が栄養のバランスのとれた食生活に関心を持ち、自ら食事を工夫し、健康の自己管理に関する意識を高めることを目標に企画した。また、平成11年度からは、学生の生活習慣に関する問題が多いことに着目し、日常の生活習慣に対する健康意識をさらに高めるために「肥満とやせ」をテーマに健康セミナーを実施した。上記のような経過をたどり、平成16年度からの4年間は鳥取県東部福祉保健局との共催により健康セミナーを開催した。

##### 2. 生活習慣病予防指導

平成27年度も学生・教職員を対象に生活習慣予防を目的に禁煙相談外来、呼気CO濃度測定、骨量測定を実施した。また、栄養指導、やせ・肥満の健康障害などの内容についても個別的に指導した。

##### 3. アルコール健康セミナー

保健管理センターにおいてアルコールパッチテストを実施した。アルコールパッチテストの参加者は鳥取地区157名、米子地区37名であった。参加者に対して、体質別指導とともにアルコールの代謝、アルハラ、アルコール健康被害などに関して分かりやすく、詳細に指導した。

#### II. 自動体外式除細動器（AED）講習会

平成16年7月から一般市民もAEDを使用できるようになりました。本学では平成18年1月から学内にAEDを設置し、心臓停止状態の発生にそなえ、救急車が到着するまでの救命措置として、迅速に対応が出来るよう各部署にAEDを設置しました。

平成27年度の講習会は、11月6日（トレーニングルーム）、教職員24名が参加され、鳥取県東部広域行政管理組合湖山消防署のご協力のもと心肺蘇生法、AEDの使用法等についてご指導頂きました。鳥取県東部広域行政管理組合湖山消防署の職員の方々に厚く御礼申し上げます。

#### III. 講演会・グループワーク

平成27年6月～平成28年2月にかけて計13回、臨床心理士の浦木先生が学生を対象にソーシャルスキル・トレーニングを実施し、「他者との上手な関わり方」について指導した。

三島先生が留学生オリエンテーションにおいて感染症、健康診断、禁煙、アルコール健康障害、保健管理センターの役割とその利用方法などについて説明した。

その他、工学部電気電子学科1年生を対象に「学生と健康」と題して講演した。

今後も引き続き健康セミナー・AED講習会・グループワーク・講演会を開催するとともに、禁煙外来、栄養指導、アルコール健康障害などに関しても健康指導をおこないたいと考えていますので、多くの学生・教職員の皆様のご参加をお待ちしております。

(2) 広報誌「保健管理センターだより」発行

# 保健管理

## センターだより

No. 46 平成28年2月



### 目次

「健康づくりのための睡眠指針 2014」について（その1）	中村 準一	1
健康診断項目からわかること	三島 香津子	3
Let's「49Kgan」検診！！	浜本 扇代	6
筋トレのススメ、筋トレのメリット	松原 典子	8
平成27年度学生健康診断結果について	浜本扇代・松原典子	10
平成27年度健康相談集計（学生および職員）	//	14
平成27年度学生教育研究災害傷害保険請求状況	倉光 ひとみ	18
学研災・学研賠加入状況（平成23～27年度）	//	19
掲示板		20

#### 鳥取大学保健管理センター

この保健管理センターだよりは、ホームページにも掲載しています。

<http://www.tottori-u.ac.jp/dd.aspx?menuid=2185>

## Ⅱ 調査及び研究報告

# 1. 鳥取大学における学生相談の検討（平成 25 年度・第 18 報）

鳥取大学保健管理センター 中村準一 浦木恵子 三島香津子 宮田知子

## はじめに

保健管理センター年報（報告書）において、当大学における学生相談に関して、相談学生数、診断などについて報告<sup>1)</sup>してきたが、本稿では、平成 25 年度の学生相談について学部別、男女別、入学年度別に相談学生数、相談率などの点から過去の報告と比較検討し、若干の考察を加えてみる。

## I. 対象と方法

平成 25 年度鳥取大学（鳥取地区）に在籍した学部学生で、同年度に学生相談を目的に保健管理センターに来所した学生を対象とした。大学院生、研究生、医学科 1 年生と医学部 2 年生以上（進級により鳥取地区から米子地区へ移住）の学生は対象から除外し、6 年制学部の農学部獣医学科の 5、6 年生については、4 年制学部学科の学生と同様に平成 21 年度以前の入学者として統計処理したことをお断りしておく。

平成 25 年 4 月 30 日現在の各学部 1 年次の在籍学生数を表 1、地域学部、工学部、農学部の在籍学生数を表 2 に示した。

表1 1年次の学部別在籍学生数(医学科を除く)

学部	男子	女子	全学生
地域学部	90	106	196
医学部	41	122	163
工学部	398	68	466
農学部	126	114	240
合計	655	410	1,065

表2 3学部における学部別在籍学生数

学部	男子	女子	全学生
地域学部	390	468	858
工学部	1,780	247	2,027
農学部	566	517	1,083
合計	2,736	1,232	3,968

## II. 結果

### 1. 1 年次（医学科を除く）の学部別相談学生数

平成 25 年度における 1 年次の相談学生は、地域学部では男子 3 人・女子 3 人・全学生 6 人、医学部では男子 0 人・女子 3 人・全学生 3 人、工学部では男子 3 人・女子 0 人・全学生 3 人、農学部では男子 3 人・女子 1 人・全学生 4 人であり、全学部の相談学生数は 16 人（男子 9 人・女子 7 人）であった。

### 2. 1 年次（医学科を除く）の学部別相談率

平成 25 年度入学者（1 年次）の各学部学生数（同年度入学）における相談学生数の割合（相談率）についてみると、地域学部では男子 3.33%・女子 2.83%・全学生 3.06%，医学部では男子 0%・女子 2.46%・全学生 1.84%，工学部では男子 0.75%・女子 0%・全学生 0.64%，農学部では男子 2.38%・女子 0.88%・全学生 1.67%，4 学部では男子 1.37%・女子 1.71%・全学生 1.50%であった（図 1）。

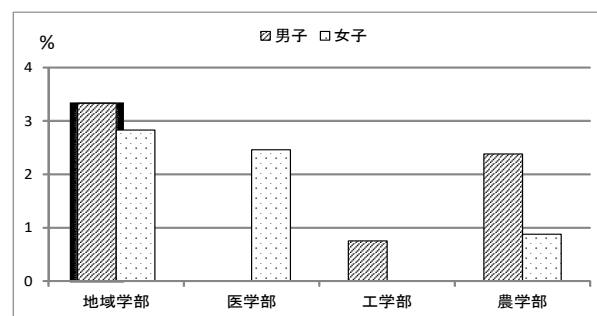


図 1 1 年次（医学科を除く）の学部別相談率

### 3. 地域学部、工学部、農学部の 3 学部における男女別相談学生数

平成 25 年度の地域学部、工学部、農学部の 3 学部における相談学生数を表 3 に示した。相談

学生は、地域学部では男子 15 人・女子 12 人・全学生 27 人，工学部では男子 36 人・女子 4 人・全学生 40 人，農学部では男子 23 人・女子 15 人・全学生 38 人であり，3 学部の相談学生数は 105 人（男子 74 人・女子 31 人）であった。

表3 3学部の学部別相談学生数

学部	男子	女子	全学生
地域学部	15	12	27
工学部	36	4	40
農学部	23	15	38
合計	74	31	105

#### 4. 地域学部，工学部，農学部の3学部における男女別相談率

各学部の相談率は，地域学部では男子 3.85 %・女子 2.56 %・全学生 3.15 %，工学部では男子 2.02 %・女子 1.62 %・全学生 1.97 %，農学部では男子 4.06 %・女子 2.90 %・全学生 3.51 %，3 学部の相談率は男子 2.70 %，女子 2.52 %，全学生では 2.65 %であった。（図 2）。

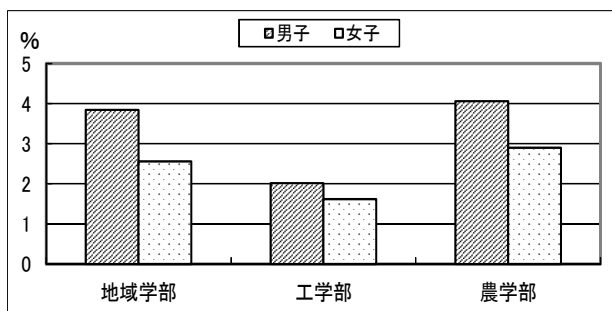


図 2 3 学部における男女別相談率

#### 5. 地域学部，工学部，農学部の3学部における入学年度別・男女別の相談学生数

入学年度を平成 25 年度，平成 24 年度，平成 23 年度，平成 22 年度，平成 21 年度以前の 5 分類に分け，入学年度別・男女別の在籍学生数を表 4 に示した。

相談学生数は平成 25 年度入学では男子 9 人・女子 4 人・全学生 13 人，平成 24 年度では男子 10 人・女子 1 人・全学生 11 人，平成 23 年度では男子 14 人・女子 9 人・全学生 23 人，平成 22

表4 3学部の入学年度別在籍学生数

入学年度	男子	女子	全学生
H25年度	614	288	902
H24年度	607	291	898
H23年度	623	302	925
H22年度	611	285	896
～H21年度	281	66	347
合計	2,736	1,232	3,968

年度では男子 23 人・女子 13 人・全学生 36 人，平成 21 年度以前では男子 18 人・女子 4 人・全学生 22 人であった。

#### 6. 地域学部，工学部，農学部の3学部における入学年度別・男女別の相談率

入学年度別・男女別の相談率を図 3 に，入学年度別全学生の相談率を図 4 に示した。

相談率は平成 25 年度では男 1.47 %・女子 1.39 %・全学生 1.44 %，平成 24 年度では男子 1.65 %・女子 0.34 %・全学生 1.22 %，平成 23 年度では男子 2.25 %・女子 2.98 %・全学生 2.47 %，平成 22 年度では男子 3.76 %・女子 4.56 %・全学生 4.02 %，平成 21 年度以前では男子 6.41 %・女子 6.06 %・全学生 6.34 %であった。

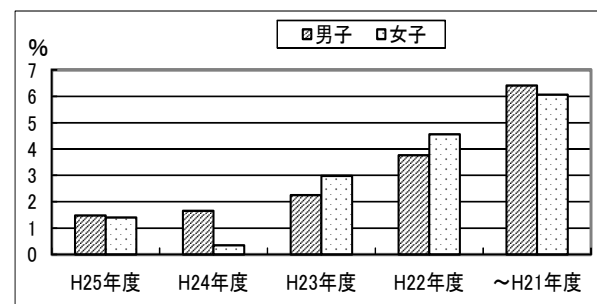


図 3 3 学部の入学年度別・男女別相談率

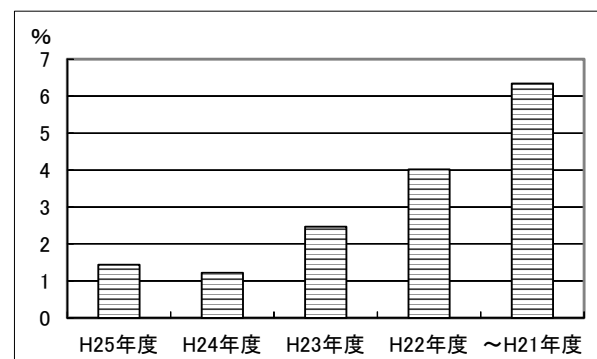


図 4 3 学部の入学年度別相談率

### Ⅲ. 考 察

平成 25 年度入学者（1 年次，医学科を除く）の相談学生数では，地域学部 6 人，医学部 3 人，工学部 3 人，農学部 4 人で，その相談率はそれぞれ 3.06 %，1.84 %，0.64，1.67 %であり，地域学部の相談率は工学部のそれと比べて約 4.8 倍も高かった。平成 16，17 年度は地域学部の相談率が高く，平成 18，20 年度では医学部，平成 24 年度では農学部の相談率が高く，年度により差異がみられた。また，1 年次の女子の相談率は男子の相談率よりも約 1.2 倍高く，昨年度と逆の結果であった。平成 14，17，18，19，20，21 年度では女子の相談率が男子の相談率よりも高く，平成 15，16，24 年度では男子の相談率が女子の相談率に比べて高く，年度により差異がみられた。医学部を除いた 3 学部における相談学生数では，地域学部 27 人，工学部 40 人，農学部 38 人で，その相談率はそれぞれ 3.15 %，1.97 %，3.51 %であり，農学部の相談率は工学部のそれと比べて約 1.8 倍高かった。また 3 学部における男子の相談率は 2.70 %，女子の相談率は 2.52 %でありほぼ同等の値であった。平成 12 年度から 20，24 年度は女子の相談率の方が男子のそれよりも高かく，平成 21 年度において相談率が逆転し，平成 25 年度も男子の相談率が高値を示した。

次に 3 学部における入学年度別相談率について検討する。平成 25 年度では平成 24 年度入学者の相談率が 1.22 %と 1 番の低値を示し，平成 25 年度入学者が 1.44 %と 2 番目に低い値であった。平成 21 年度以前入学者（在籍 5 年以上の学生）の相談率は 6.34 %と 1 番高い値を示し，当大学における休学学生，退学学生の報告<sup>4)</sup>でも，5 年次以上では休学率，退学率が増加しており，通常の在籍年数 4 年を越えることは，相談率，休学率，退学率にかなり影響を与えることを示しているものと考えられる。当大学における以前の調査報告を総合的に検討すると，通常の在

学年数 4 年を越えることは，学生の精神状態を不安定にする可能性が高いと考えられる。あるいは何らかの精神的問題を抱えているからこそ在学年数が 4 年を越えてしまう可能性もあると思われる。大学 4 年生頃の心理的負荷としては，卒論，就職，大学院進学などを挙げることができ，そのようなことが誘因となっている可能性が示唆される。昨今の経済的不況による影響もあり，就職の困難さが心理的負荷となる危険性が益々高くなるであろう。平成 18，19，21 年度では新入生の相談率は 1 番低値を示していたが，過去の報告では新入生の相談率は高い傾向がみられ，新入生の心の問題にも注意を向ける必要があるだろう。大学は悩みを抱えた学生に対応するためにも，保健管理センターや学生相談に関わるマンパワーを充実することをは勿論であるが，学生が入学早期に大学生活に適應できるような組織的体制を構築する必要があると思われる。

### おわりに

当大学における平成 25 年度の学生相談について，学部別・入学年度別・男女別などの点から比較検討した。男子の相談率は女子よりも軽度高い傾向を示し，在学年数 4 年を超える学生では相談率が他の年次に比べて高かった。

### 文 献

- 1) 中村準一: 学生相談・精神保健相談. 保健管理センター報告書. pp 16-17, 2011
- 2) 中島潤子ほか: 大学における休・退学，留年学生に関する調査. 第 20 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書. 香川大学, pp 7-17, 1999
- 3) 中村準一: 新入生のメンタルヘルスについて. 保健管理センターだより 30: 2-4, 1999
- 4) 中村準一ほか: 鳥取大学における休学者の検討. 保健管理センター年報. pp 25-26, 2016
- 5) 中村準一ほか: 鳥取大学における退学者の検討. 保健管理センター年報. 鳥取大学, pp 27-28, 2016

## 2. 鳥取大学における休学者の検討（平成 25 年度・第 18 報）

鳥取大学保健管理センター 中村準一 三島香津子

### はじめに

保健管理センター年報（平成 26 年度）では、平成 24 年度の休学者について報告<sup>1)</sup>したが、本稿では平成 25 年度の休学者について検討してみたい。従来から、大学生の休学・退学・留年については多方面から検討されてきた。大学生が休学する原因は進路再考，進路変更，大学再受検，学業不振，海外留学，海外渡航，資格試験準備，病気，病気療養，交通事故，経済的理由，家庭の事情などさまざまであると報告<sup>2)</sup>されている。

### I. 対象と方法

平成 25 年度鳥取大学に在籍した学部学生で、同年度に休学した学生を対象に実態調査をおこなった。平成 25 年 4 月 30 日現在の各学部在籍学生数を使用した。本稿では 6 年制学部の医学部医学科，農学部獣医学科の 5，6 年生についても，4 年制学部学科と同様に平成 21 年度以前の入学者として統計処理したことをお断りしておく。本調査では，本人から提出された書類などを判断の材料として，プライバシーを十分に配慮したうえでおこなった。

## II. 結果

### 1. 学部別，男女別の休学学生数

平成 25 年度の休学学生は，地域学部では男子 27 人・女子 9 人・全地域学部学生 36 人，医学部では男 22 人・女子 16 人・全医学部学生 38 人，工学部では男子 77 人・女子 3 人・全工学部学生 80 人，農学部では男子 18 人・女子 9 人・全農学部学生 27 人，全学部の休学学生は 181 人（男子 144 人・女子 37 人）であった（図 1）。

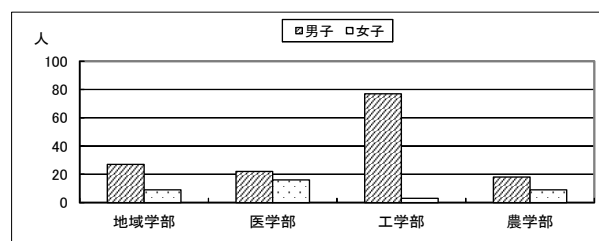


図 1 学部別の休学学生数

### 2. 学部別，男女別の休学率

各学部の在籍学生数に対する休学学生数の割合（学部別の休学率）についてみると，地域学部では男子 6.92 %・女子 1.92 %・全地域学部学生 4.20 %，医学部では男子 3.68 %・女子 2.35 %・全医学部学生 2.97 %，工学部では男子 4.33 %・女子 1.21 %・全工学部学生 3.95 %，農学部では男子 3.18 %・女子 1.74 %・全農学部学生 2.49 %であり，男子学生の休学率は 4.32 %，女子学生のそれは 1.93 %であり，全学生では 3.45 %であった（図 2）。

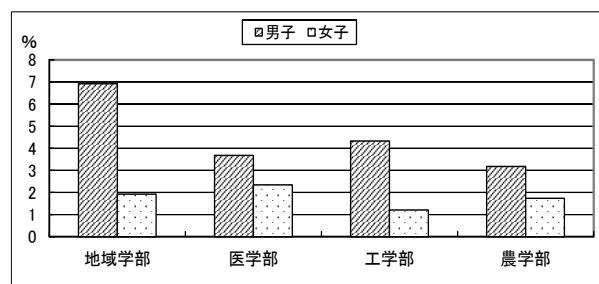


図 2 学部別の休学率

### 3. 入学年度別の休学学生数

休学学生の入学年度を平成 25 年度，平成 24 年度，平成 23 年度，平成 22 年度，平成 21 年度以前の 5 分類にして比べてみる。

休学学生数についてみると平成 25 年度入学では男子 9 人・女子 5 人・全学生 14 人，平成 24 年度では男子 22 人・女子 5 人・全学生 27 人，

平成 23 年度では男子 18 人・女子 6 人・全学生 24 人，平成 22 年度では男子 37 人・女子 12 人・全学生 49 人で，平成 21 年度以前においては男子 58 人・女子 9 人・全学生 67 人であった（図 3）。

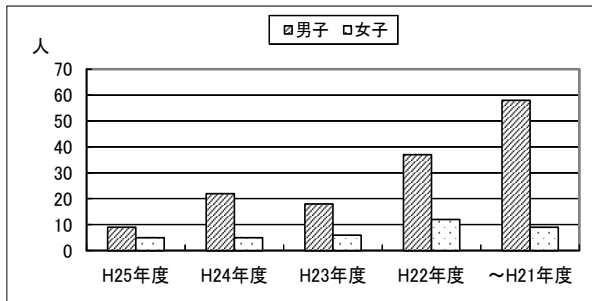


図 3 入学年度別の休学学生数

#### 4. 入学年度別の休学率

各入学年度在籍学生数に対する休学学生数の割合（入学年度別の休学率）についてみると，平成 25 年度では男子 1.26 %・女子 1.10 %・全学生 1.20 %，平成 24 年度では男子 3.05 %・女子 1.11 %・全学生 2.30 %，平成 23 年度では男子 2.46 %・女子 1.30 %・全学生 2.01 %，平成 22 年度では男子 5.03 %・女子 2.82 %・全学生 4.22 %，平成 21 年度以前では男子 13.52 %・女子 7.44 %・全学生 12.18 %であった（図 4）。

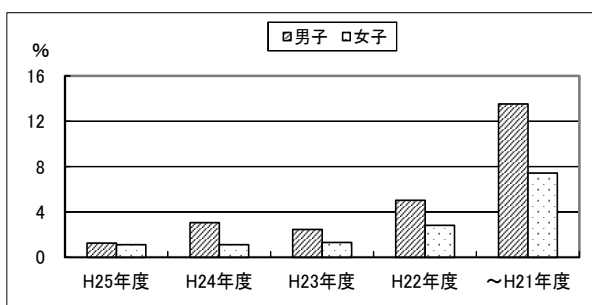


図 4 入学年度別の休学率

### Ⅲ. 考 察

全国大学メンタルヘルス研究会の研究班によると国立大学の平成 25 年度平均休学率は 2.77 %と報告<sup>3)</sup>されている。この休学率は大学によりかなり開きがあるともいわれている。

当大学における平成 25 年度の休学学生は 181 人で，全学生数に対する休学学生数の割合（休学率）は 3.45 %であり，国立大学の平均値よりも 0.68 %高値を示していた。また，男女別の休学率では，当大学の休学率は男子 4.32 %・女子 1.93 %であり，男子学生の方が女子学生の約 2.2 倍高く，全国の国立大学の休学率（男子 2.98 %，女子 2.37 %）と比べて，男子の休学率は 1.34 %高く，女子では 0.44 %低かった。

次に，入学年度から休学学生を検討してみたいと思う。全入学年度において男子の休学率は女子の休学率よりも高かった。男女ともに在籍 5 年以上で休学率が高くなる傾向がみられ，この傾向は平成 10 年度から平成 24 年度までの調査でも同様の傾向を示し，平成 25 年度も追認する結果であった。

大学が休学学生を減らすためには，入学早期から学生が自ら勉強・研究への興味・関心を持てるように指導するとともに，日頃から学生の大学生活・修学状況や学生の心身状態への関心を持ち続けることも重要であると思われる。

#### おわりに

当大学における平成 25 年度の休学学生について，学部別，入学年度別，男女別などの点から平成 24 年度以前までの結果と全国の国立大学における休学者の調査と比較し，検討した。

#### 文 献

- 1) 中村準一ほか：鳥取大学における休学者の検討. 保健管理センター報告書 27: 22-23, 2014
- 2) 中島潤子ほか：大学における休・退学，留年学生に関する調査. 第 20 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書. 香川大学, 1999
- 3) 布施泰子ほか：大学における休・退学，留年学生に関する調査大学（第 36 報）. 「メンタルヘルス委員会学部学生調査研究班」. 茨城大学, 2016



### 3. 鳥取大学における退学者の検討（平成 25 年度・第 18 報）

鳥取大学保健管理センター 中村準一 三島香津子

#### はじめに

従来から、大学生の休学・退学・留年については、各分野の方々から多面的に検討されてきた。そして、大学生が退学する原因は進路変更，大学再受検，単位取得不足，修学年限満了，就職，疾病，事故死，経済的理由，家庭の事情など様々であると報告<sup>1)</sup>されている。

本稿では当大学における平成 25 年度の実態調査の結果をもとに、若干の考察を加えて報告する。

#### I. 対象と方法

平成 25 年度鳥取大学に在籍した学部学生で、同年度に退学した学生を対象に実態調査をおこなった。平成 25 年 4 月 30 日現在の各学部在籍学生数を使用した。本稿では、6 年制学部の医学部医学科，農学部獣医学科の 5，6 年生についても、4 年制学部学科と同様に平成 21 年度以前の入学者として統計処理した。

本調査では、本人から提出された書類などを退学状況の判断材料として、プライバシーを十分に配慮したうえで、退学について調査をおこなった。

#### II. 結 果

##### 1. 学部別，男女別の退学学生数

平成 25 年度の退学学生は、地域学部では男子 4 人・女子 4 人・全地域学生 8 人，医学部では男子 3 人・女子 3 人・全医学部学生 6 人，工学部では男子 40 人・女子 1 人・全工学部学 41 人，農学部では男子 13 人・女子 3 人・全農学部学生 16 人であり，全学部の退学学生は 71 人（男子 60 人・女子 11 人）であった（図 1）。

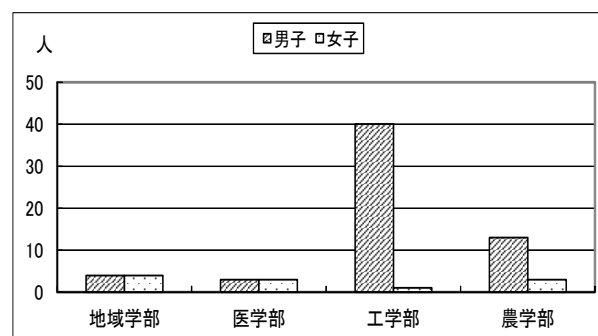


図 1 学部別の退学学生数

##### 2. 学部別，男女別の退学率

各学部在籍学生数に対する退学学生数の割合（学部別の退学率）についてみると，地域学部では男子 1.03 %・女子 0.85 %・全地域学部学生 0.93 %，医学部では男子 0.50 %・女子 0.44 %・全医学部学生 0.47 %，工学部では男子 2.25 %・女子 0.40 %・全工学部学生 2.02 %，農学部では男子 2.30 %・女子 0.58 %・全農学部学生 1.48 %であり，男子学生の退学率は 1.80 %，女子学生のそれは 0.57 %であり，全学生では 1.35 %であった（図 2）。

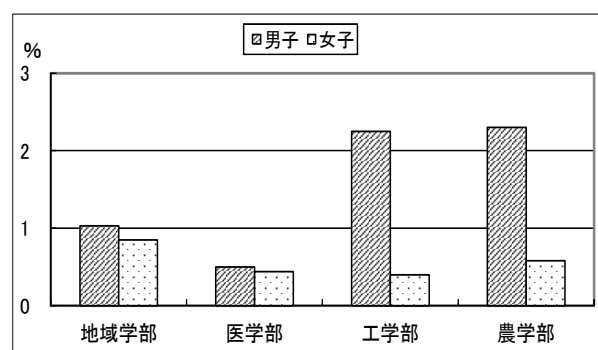


図 2 学部別，男女別の退学率

##### 3. 入学年度別の退学学生数

入学年度別の退学学生数は，平成 25 年度では男子 7 人・女子 2 人，平成 24 年度入学では男子

8人・女子1人，平成23年度入学では男子6人・女子2人，平成22年度入学では男子12人・女子1人，平成21年度以前入学では男子27人・女子5人であった（図3）。

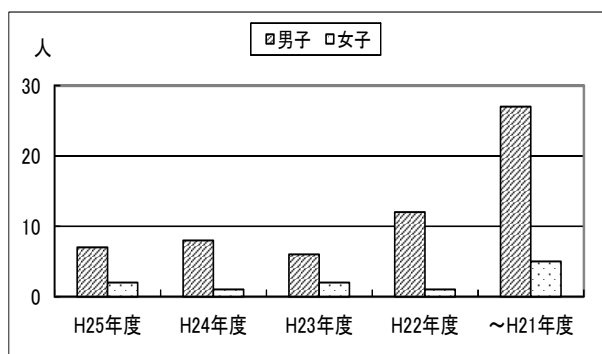


図3 入学年度別の退学学生数

#### 4. 入学年度別の退学率

各入学年度在籍学生数に対する退学学生数の割合（入学年度別の退学率）についてみると，平成25年度入学では男子0.98%・女子0.44%，平成24年度入学では男子1.11%・女子0.22%，平成23年度入学では男子0.82%・女子0.43%，平成22年度入学では男子1.63%・女子0.24%，平成21年度入学以前では男子6.29%・女子4.13%であった（図4）。

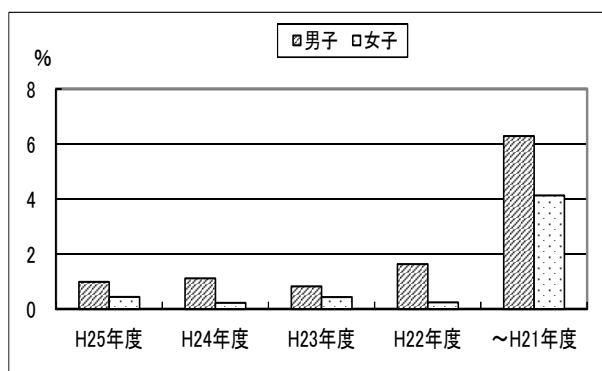


図4 入学年度別，男女別の退学率

### Ⅲ. 考 察

全国大学メンタルヘルス研究会の研究班によると国立大学の平成25年度の平均退学率は，1.32

%と報告<sup>2)</sup>されている。この退学率は大学によりかなり開きがあるともいわれている<sup>2)</sup>。当大学における平成25年度の退学学生は71人で，その退学率は1.35%であり，国立大学の平均値よりも0.03%高い値を示していた。平成25年度の当大学における男女別の退学率は，男子1.80%・女子0.57%であり，男子学生の方が女子学生の約3.2倍高く，全国の国立大学の退学率（男子1.64%，女子0.75%）と比べて，男子では0.16%高く，女子では0.18%低い値を示した。

男子では平成25年度入学から平成22年度入学までは0.82～1.63%の間で推移していたが，平成21年度以前入学では6.29%と増加し，このような増加傾向は平成10年度以降，平成24年度まで同様にみられた。女子では平成25年度入学から平成22年度入学までは0.22%～0.44%の間で推移しており，男子と同様に平成21年度以前入学では4.13%と一番高い値を示した。退学学生への対応としては，入学早期から学生が自ら勉強・研究への興味・関心をもてるように指導するとともに，日頃から学生に関心を持ち，個別的に対応することも重要であると思われる。

### おわりに

平成25年度の退学学生について，学部別，入学年度別，男女別から検討した。当大学の退学率は全国の国立大学と比べてほぼ同程度の値を示し，また在籍年数が5年以上の学生は4年以下の在籍学生と比べて高値を示していた。

### 文 献

- 1) 中島潤子ほか: 大学における休・退学，留年学生に関する調査. 第20回全国大学メンタルヘルス研究会報告書. 香川大学, 1999
- 2) 布施泰子ほか: 大学における休・退学，留年学生に関する調査大学（第36報）. 「メンタルヘルス委員会学部学生調査研究班」. 茨城大学, 2016

## 4. 鳥取大学における留年学生の検討（平成 25 年度・第 18 報）

鳥取大学保健管理センター 中村準一 三島香津子

### はじめに

前回の保健管理センター年報では、平成 24 年度の留年学生について報告<sup>1)</sup>したが、本稿では平成 25 年度の留年学生について、過去の報告とともに、平成 25 年度全国の国立大学の調査<sup>3)</sup>と比較し、当大学の特徴について検討してみる。

以前から、大学生の休学・退学・留年については多方面から検討されてきた。大学生が留年する原因は修学上の問題、学業不振、不登校、ひきこもり、進路変更、大学再受検、海外留学、病気・ケガ療養、事故、経済的理由、家庭の事情などさまざまであると報告<sup>4)</sup>されている。

本稿では、当大学における平成 25 年度の留年学生の実態調査を施行し、若干の考察を加えて報告する。

### I. 対象と方法

平成 25 年度鳥取大学に在籍した学部学生で、同年度に留年（理由を問わず最低終業年限を越えて在籍する）した学生を対象に実態調査をおこなった。

平成 25 年 4 月 30 日現在の各学部在籍学生数を使用した。

表 平成25年度の学部別在籍学生数

学部	男子	女子	計
地域学部	390	468	858
医学部	598	682	1,280
工学部	1,780	247	2,027
農学部	566	517	1,083
合計	3,334	1,914	5,248

### II. 結果

#### 1. 学部別、男女別の留年学生数

平成 25 年度の留年学生は、地域学部では男子 40 人・女子 11 人・全地域学部学生 51 人、医学部では男子 24 人・女子 9 人・全医学部学生 33 人、工学部では男子 168 人・女子 5 人・全工学部学生 173 人、農学部では男子 36 人・女子 21 人・全農学部学生 57 人であり、全学部の留年学生は 314 人（男子 268 人・女子 46 人）であった（図 1）。

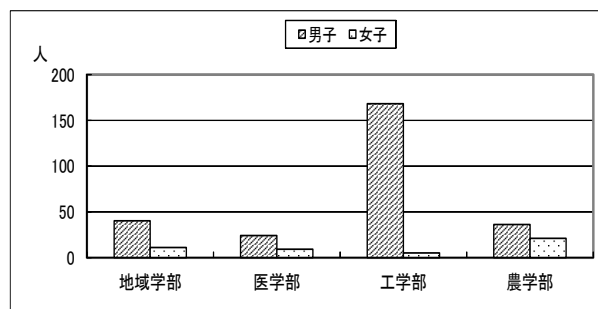


図 1 学部別、男女別の留年学生数

#### 2. 学部別・男女別の留年率

各学部在籍学生数に対する留年学生数の割合（学部別の留年率）についてみると、地域学部では男子 10.26 %・女子 2.35 %・全地域学部学生 5.94 %，医学部では男子 4.01 %・女子 1.32 %・全医学部学生 2.58 %，工学部では男子 9.44 %・女子 2.02 %・全工学部学生 8.53 %，農学部では男子 6.36 %・女子 4.06 %・全農学部学生 5.26 %であった（図 2）。

平成 25 年度の男子学生の留年率は 8.04 %，女子学生のそれは 2.40 %であり，全学生で 5.98 %であった。平成 24 年度と比べ地域学部，医学部，農学部は増加し，工学部は減少していた。

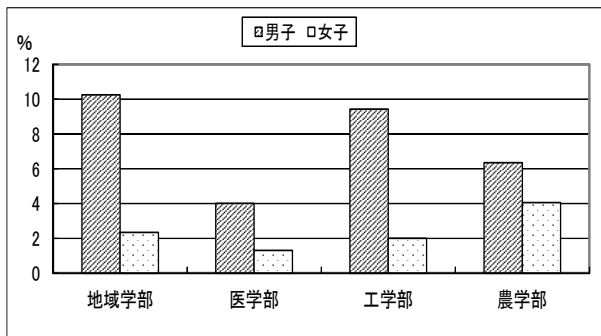


図2 学部別、男女別の留年率

### Ⅲ. 考 察

全国大学メンタルヘルス研究会の研究班によると国立大学の平成25年度の平均留年率は5.33%と、この留年率は平成2年度から増加曲線を描き、平成14年度より7年連続減少し、以後横ばい傾向にあると報告<sup>3)</sup>されている。

当大学における平成25年度の留年学生は314人、全学部在籍学生数に対する留年率は5.98%であり、国立大学の平均値よりも0.65%高い数値を示していた。

また、男女別の留年率からみると、当大学の留年率は男子8.04%・女子2.40%であり、男子学生の方が女子学生の約3.4倍高く、平成15年度約3.4倍、平成16年度約3.8倍、平成17年度約3.1倍、平成18年度約3.0倍、平成19年度約2.7倍、平成20年度約2.2倍、平成21年度約2.7倍、平成22年度約2.6倍、平成23年度約4.1倍、平成24年度約4.2倍であり、過去11年間で4番目に高い値であった<sup>1,2)</sup>。平成25年度の全国の国立大学の留年率（男子6.66%、女2.88%）と比べると、男子では1.38%高く、女子では0.48%低い数値を示した。

学部別の留年率についてみると、男子では地域学部、工学部、農学部、医学部の順に、女子では農学部、地域学部、工学部、医学部の順に高く、男女合わせた学部別の留年率は工学部、地域学部、農学部、医学部の順に高かった。男子では地域学部の留年率は医学部の約2.6倍で

あり、女子では農学部の留年率は医学部の約3.1倍であり、男女合わせた工学部の留年率は医学部の約3.3倍であった。他の3学部と比べて工学部でみられた留年率の高さは、平成8年度から平成24年度の留年学生の報告<sup>1,2)</sup>とほぼ同様の傾向を示していた。工学部は他の3学部と比べてその在籍学生数が数倍多く、しかも男子学生数1,780人、女子学生数247人であり、他の学部と比べて男子学生の割合が非常に高く、全国の国立大学の結果でも男子の留年率は女子と比べて約2.3倍高く、この男女における留年率の差異が工学部の留年率を高めている原因の1つになっているものと推測される。

全学部全体の留年率が高い値のまま継続傾向にあることが懸念される。大学は不本意に留年せざるを得ない学生を少しでも減らすためにも、教職員は大学人としての教育的役割機能を自覚し、学生に対する理解を深め、適切に対応することが大切である。

### おわりに

当大学における平成25年度の留年学生について、学部別、男女別などの点から全国の国立大学の報告と比較検討した。当大学の留年率は、全国大学と比べて0.65%高かった。

### 文 献

- 1) 中村準一ほか: 鳥取大学における留年学生の検討 (第15報). 保健管理センター報告書27: 26-27, 2014
- 2) 中村準一: 鳥取大学における留年学生の検討 (第5報). 保健管理センター報告書19: 117-119, 2004
- 3) 布施泰子ほか: 大学における休・退学、留年学生に関する調査大学 (第36報). 「メンタルヘルス委員会学部学生調査研究班」. 茨城大学, 2016
- 4) 中島潤子ほか: 大学における休・退学、留年学生に関する調査. 第20回全国大学メンタルヘルス研究会報告書. 香川大学学, 1999

## 5. 本学教職員の喫煙状況～構内全面禁煙以後の喫煙率の推移～

鳥取大学保健管理センター 三島香津子, 中村準一

鳥取大学は、平成 21 年 10 月より構内全面禁煙となった。今回、構内全面禁煙後の教職員の喫煙状況を把握するために、法令に基づき実施されている教職員定期健康診断の間診票から喫煙率を推定したので、若干の考察とともに報告する。

### 【方法】

教職員定期健康診断時に配布される問診票記載事項の喫煙に関する項目から、喫煙率を推定した(本学から委託された検診機関が、指定期間を実施した定期健康診断を受診した職員のみを対象とした)。問診票の喫煙に関する項目の選択肢は、現在喫煙している・過去に喫煙していた・喫煙しない、の3つで、“現在喫煙している”と解答した職員を、喫煙者と判断した。平成 22 年度から 27 年度を対象期間とした。

### 【結果】

各年度の教職員と全国<sup>1)</sup>の喫煙率及び推移を、表 1・図 1 に示す。男性・女性の喫煙率は、平成 22 年度は 18.7%・1.2%であったが、平成 27 年度には 13.1%・0.4%に減少していた。

表 1. 教職員喫煙率

区分	年度別喫煙率						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
男性	教職員%	18.7	17.9	16.3	12.7	13.1	13.1
	人数/総数	100/534	97/543	88/541	63/498	68/521	59/452
	全国%	36.6	33.7	32.7	32.2	30.3	31
女性	教職員%	1.2	3	1.7	1.2	1	0.4
	人数/総数	3/243	8/269	5/290	3/254	3/289	1/264
	全国%	12.1	10.6	10.4	10.5	9.8	9.6

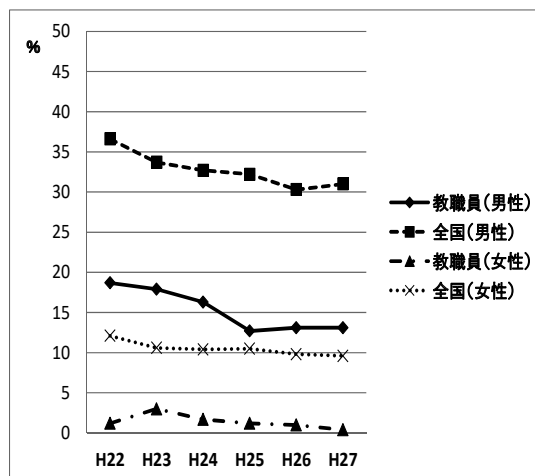


図 1. 教職員及び全国の喫煙率の推移

平成 27 年度の、各年代の教職員喫煙率を表 2・図 2 に示した。なお、女性の喫煙者は 1 名であったため、男性のみ表示した。喫煙率が最も高かったのは 30 代で、21.4%であった。

表 2. 平成 27 年度男性教職員年代別喫煙率

喫煙の有無	男性職員年代別喫煙率(人数)					
	10代(1)	20代(32)	30代(98)	40代(152)	50代(106)	60代以上(63)
あり	0(0)	12.5(4)	21.4(21)	7.2(11)	13.2(14)	14.3(9)
過去にあり	0(0)	3.1(1)	15.3(15)	25.7(39)	20.8(22)	22.2(14)
なし	100(1)	84.4(27)	63.3(62)	67.1(102)	66.0(70)	63.5(40)

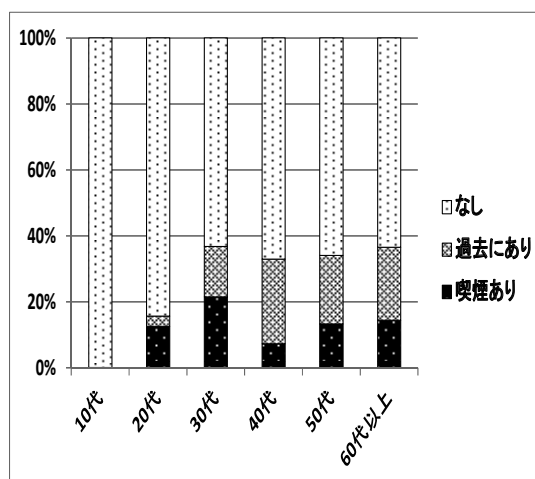


図 2. 平成 27 年度男性教職員年代別喫煙歴

【考察】

本学の教職員喫煙率は、各年度および男女とも、全国と比較して低かった。特に女性教職員では、平成27年度の喫煙者は1名まで減少しており、近い将来ゼロになる可能性が高い。一方、男性教職員の喫煙率は、平成25年度に12.7%まで減少したが、翌26年度には13.1%に微増し、27年度は横ばいであった。また、男性では30代の喫煙率が最も高く21.4%であった。喫煙したことがない職員は、30代～60代では60%台と各年代でほぼ同等であったが、過去に喫煙歴があると回答した教職員は、30代15.3%に対して、40代25.7%・50代20.8%・60代以上22.4%と、40代以上では現在の喫煙者より高かった。上記から、40代以上では、禁煙した職員が多いことがわかる。喫煙は、心身の健康に対し悪影響を及ぼすことは周知の事実である(表3)<sup>2,3,4,5,6)</sup>。

表3. 喫煙と身体疾患のリスク

疾患名		リスク 非喫煙者に対し)
がん	口唇・口腔・咽頭	2.7倍
	喉頭	5.5倍
	食道	3.4倍
	胃	1.5倍
	肺	4.8倍
	膀胱・腎盂・尿管	5.4倍
脳卒中	脳梗塞	男性1.66倍・女性1.57倍
	くも膜下出血	男性3.6倍・女性2.7倍
眼疾患	加齢黄斑変性症	約3倍(失明原因4位)
	白内障	約3倍
慢性閉塞性肺疾患		喫煙者の15～20%に発症進行とともに呼吸困難
急性心筋梗塞		独立したリスクだが、禁煙後3～4年で非喫煙者の発症レベルまで下がる

また、喫煙は、受動喫煙により喫煙者周囲の人々への健康に悪影響を及ぼす。受動喫煙が引き起こすことが確実な疾患として、WHO (World Health Organization; 世界保健機構) は、成人では冠動脈疾患(狭心症や心筋梗

塞など)・肺癌・女性での低出生体重児の出産、小児では、中耳疾患・肺機能低下・乳幼児突然死症候群などを提示している<sup>7)</sup>。30代は、結婚・出産などのライフイベントを経験する場面が多くなる年代であり、受動喫煙により、大切な家族の健康を害してしまうかもしれない。禁煙の推進に当たり、各年代の特性に併せた活動を行うことも必要であろう。また、2020年に開催が決定した東京オリンピック・パラリンピックでは、過去の開催国と同様に、公共機関での罰則付きの敷地内全面禁煙が検討されている(表4)<sup>8)\*</sup>。社会全体として、よりいっそう禁煙社会の実現に向けて努力する必要性が迫られている。

表4. 2010年以後のオリンピック開催国と日本の受動喫煙防止対策

\*8)より引用・一部抜粋

開催国	カナダ	イギリス	ロシア	ブラジル	日本	
開催年	2010	2012	2014	2016	現在	2020
主な対象施設	学校/医療機関/官公庁等の公共性の高い施設	0	0	0	▲	0
	公共交通機関	0	0	0	▲	0または△ 喫煙室設置可
	飲食店	0	0	0	▲	△
	事業所(職場)	0	0	0	▲	△
	罰則	◎	◎	◎	◎	X 罰則なし
	国民	◎	◎	◎	X	◎

本学では、構内全面禁煙後、大学敷地を一步出た道路等で喫煙している教職員が散見されており、周辺住民から苦情・指摘をしばしば受けている。本学の所在地である鳥取市が定める、“鳥取市快適な生活環境の確保に関する条例”第8条には、「何人も、公共の場においては、喫煙してはならない。ただし、吸い殻入れが設置されている場所において喫煙する場合又は見通しのよい場所であって、周辺

に通行し、若しくは利用する者がなく、かつ、その場所に停止して携帯用灰皿を使用して喫煙する場合は、この限りではない」と記されている。そして、この条例に違反した場合は、勧告・公表・命令を経て、最終的には罰則が記されている。大学周辺の道路は、学生はもちろん住宅に面しており住民が多数通行する。また、学部1・2回生には未成年者が在籍しているし、併設する附属小・中学校や、大学周囲には小学校・高等学校などの教育機関があり、多数の未成年者も通行する。このような環境の中で、学生の模範となるべき教職員が喫煙することは、非常に大きな問題である。保健管理センターでは、主に学生を対象に、呼気CO測定や禁煙希望者に対するニコチンパッチの処方といった禁煙活動を行なっているが、今後は、学生のみならず、教職員を含めた禁煙活動に、大学全体として取り組む必要性が高まっていると考えている。

謝辞：ご協力頂いた人事課職員係大塚優子様に深謝いたします。

#### 【文献】

- 1) 厚生労働省の TOBACCO or HEALTH 最新たばこ情報 (<http://www.health-net.or.jp/tobacco>)
- 2) 津金 昌一郎. 喫煙とがん. 日医会誌 2012 ; 141 : 1933-1937
- 3) 山田 浩之, 松原 弘明. 喫煙と心血管疾患. 日医会誌 2012 ; 141 : 1939-1941
- 4) 橋本 洋一郎. 喫煙と脳卒中. 日医会誌 2012 ; 141 : 1942-1946
- 5) 宮崎 雅樹, 別所 智子. 喫煙と COPD. 日医会誌 2012 ; 141 : 1947-1950
- 6) 石田 晋, 石橋 達朗. 喫煙と眼疾患. 日医会誌 2012 ; 141 : 1959-1961
- 7) 木村 博承. 健康日本 21 (第 2 次) におけるたばこ対策. 日医会誌 2012 ; 141 : 1911-1915
- 8) 厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp>) 全国健康関係主幹課長会議資料

## 6. 本学学生の骨量と基本的な生活習慣

(平成27年度中国四国保健管理研究集会報告書)

鳥取大学保健管理センター 三島香津子 中村準一  
 浜本扇代 倉光ひとみ  
 小川弘二 松原典子  
 坂本伊佐子

### 【はじめに】

我々は、当研究集会で、本学学生の朝食欠食等食生活の問題・骨量低下等身体面での問題について報告を行ってきた<sup>1,2,3,4)</sup>。報告内容を、学生に対する健康教育・指導に反映するよう努めてきたが、今回、学生のBMI・運動習慣・朝食摂取状況・骨量について改めて調査・検討し、学生の現状把握と、我々の活動の振り返りをおこなったので報告する。

### 【対象と方法】

2014年度、骨量測定に来所した4回生のうち、入学年度と2014年度の健康診断問診票から、運動習慣・朝食摂取状況いずれもが確認できた女子28名、男子13名を対象とした。入学時・4回生時の健康診断結果より①BMI・収縮期血圧(SBP)/拡張期血圧(DBP)・脈拍(P)、②運動習慣、③朝食摂取状況、④4回生時の骨量、以上①～④を検討した。骨量測定は、本学工学部・農学部・地域学部4回生に対して骨量測定の案内メールを送り、希望者に対して男女別々に検査日を1日ずつ設定して行った。測定には、超音波踵骨骨量測定装置(A-1000EXP II, GE Healthcare社)

を用い、若年比較骨量%(YAM%)が100%未満を骨量低下と判定した。

### 【結果】

結果を表1に示す。男女とも平均年齢は22歳(女子21~24歳、男子21~23歳)であった。

表1. 結果

	女子(28)		男子(13)		
	入学時	2014年度	入学時	2014年度	
平均BMI	20.5	20.3	21.4	21.4	
平均SBP(mmHg)	115	114	124	119	
平均DBP(mmHg)	68	68	71	70	
平均P(/分)	82	76	82	79	
平均YAM%		108.4		110.2	
運動週間	毎日	46% (13)	3% (1)	69% (9)	0% (0)
	時々	25% (7)	54% (15)	23% (3)	62% (8)
	なし	29% (8)	43% (12)	8% (1)	38% (5)
朝食摂取	毎日	86% (24)	39% (11)	100% (13)	54% (7)
	欠食	14% (4)	54% (15)	0% (0)	46% (6)
	食べない	0% (0)	7% (2)	0% (0)	0% (0)



平均 BMI は、入学時・4 回生時で、女子 20.5・20.3, 男子はいずれも 21.4・であった (図 1)。

SBP/DBP・P については、男子の平均 SBP が 4 回生時に低下していた。P は、入学時, 男女いずれも頻拍の学生が多く認められた (図 2)。

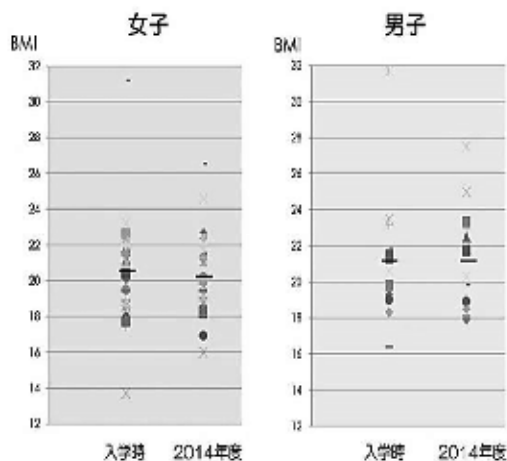


図 1. 入学時・2014 年度 BMI

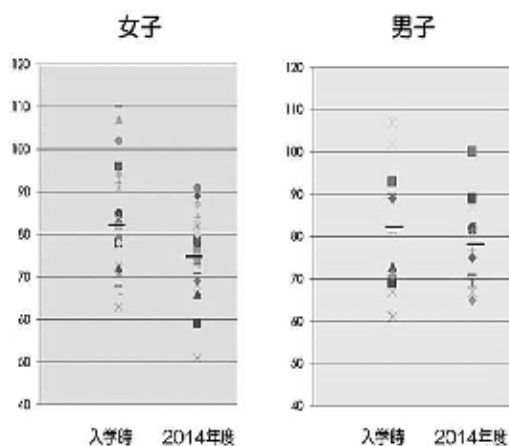


図 2. 入学時・2014 年度 P

平均 YAM%は、女子 108.4%・男子 110.2%であった。骨量の低下を、女子 10 名 (36%)・男子 2 名 (15%) に認めた (表 2)。男女とも、骨量と BMI に正の相関傾向が推測され、女子により強い傾向がみられた (図 3・図 4)。

表 2. 骨量低下群・正常群%

	女子 (28)	男子 (13)
骨量低下群: L群	36% (10)	15% (2)
骨量正常群: N群	64% (18)	85% (11)

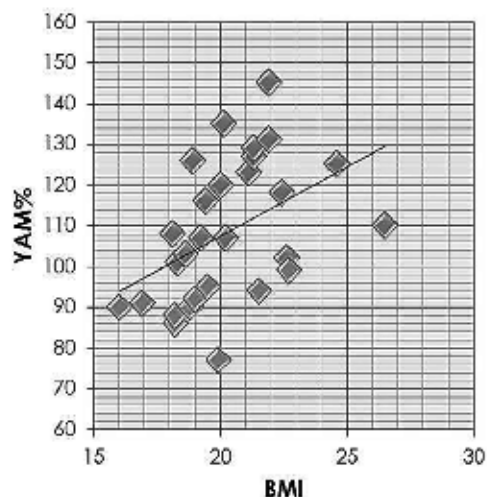


図 3. BMI と YAM% (女子)

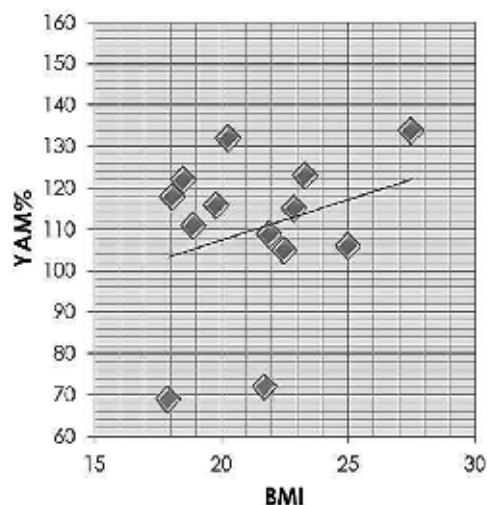


図 4. BMI と YAM% (男子)

体型別における、4 回生時の BMI・SBP/DBP・P の平均値を表 3 に示す。対象者総数が少ないため、統計学的検討は行っていないが、平均 YAM%はやせ体型で 100 未満であった。

表 3 体型別平均値

2014年度	女子			男子		
	ゆせ (6)	普通 (21)	肥満 (1)	ゆせ (2)	普通 (9)	肥満 (2)
平均 BMI	17.6	20.7	26.5	18.0	21.1	26.3
SBP (mmHg)	116	113	125	115	118	129
DBP (mmHg)	65	68	85	72	68	76
P (分)	96	78	65	73	82	74
YAM%	94	112	110	93.5	112	120

運動習慣は、男女とも、4 回生時で運動習慣のない学生が増加し、毎日運動する学生は女子 1 名のみであった。

朝食摂取状況は、男女とも、4 回生時で欠食者が著明に増加していた。女子について、4 回生時 “全く食べない” 学生は、入学時既に欠食が認められていた。

女子について、骨量低下群 (L 群) ・正常群 (N 群) 別に比較検討した。L 群・N 群で、平均 BMI は、入学時 19.4 ・21.1, 4 回生時 19.1 ・20.9 で、いずれも L 群が低い傾向であった (表 4)。

表 4. L 群・N 群別平均 BMI (女子)

平均	骨量低下群:L 群		骨量正常群:N 群	
	入学時	2014 年度	入学時	2014 年度
BMI	19.4	19.1	21.1	20.9

入学時運動習慣は、“毎日・時々・なし” が、L 群で 2 名・3 名・5 名 (20%・30%・50%), N 群では 11 名・4 名・3 名 (61%・22%・17%) で、L 群では、入学時既に運動習慣のない学生が占める割合が高かった (図 5)。入学時朝食摂取状況については、“毎日摂取・欠食あり・食べない” が、L 群で 7 名・3 名・0 名 (70%・30%・0%), N 群では 17 名・1 名・0 名 (94%・6%・0%) で、L 群では、入学時既に欠食を認める学生の割合が高い傾向であった (図 6)。

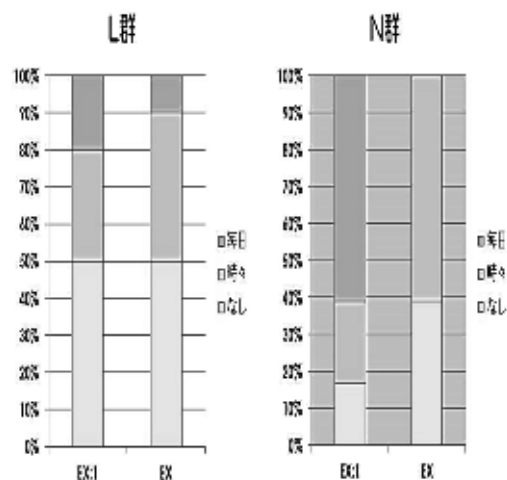


図 5. L 群・N 群別運動習慣 (女子)

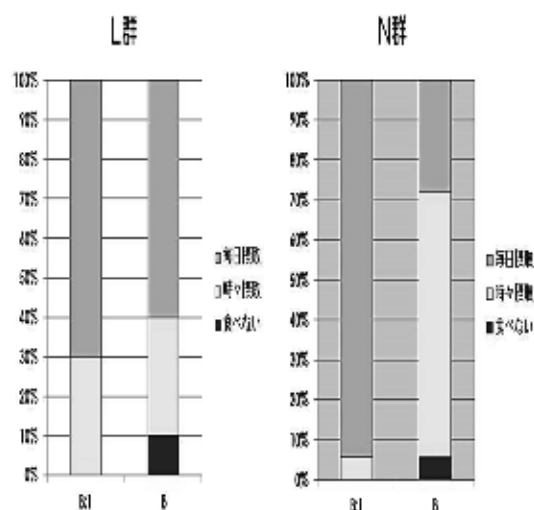


図 6. L 群・N 群別朝食摂取状況 (女子)

【考察】

我々は、BMI が 30 以上の学生に対し、運動習慣・食生活の指導を行っている。今回、入学時 BMI が 30 以上の肥満学生を男女 1 名ずつ認めたが、4 回生時には改善していた。また、BMI が入学時 13 代であった女子学生に対しては、個別に面談を行ったところ、摂食障害の既

往があり、入学時未治療であることが判明した。その後保護者も含めた面談を行い、再受診に繋がり、4回生時にはBMIが16代まで改善していた。センターでの活動が、学生の健康管理に生かされている一面を確認できた。

脈拍は、入学時、頻拍の学生が少なくなかった。本学では、新入生健康診断を入学式前の日程で実施しており、新しい、不慣れな環境における測定が、脈拍値に影響している可能性が考えられた。

運動習慣や朝食摂取については、4回生時で運動習慣が減少し、朝食欠食を認める学生が増加していた。センターでは、朝食摂取を含めた食生活指導に日々取り組んでいるが、実際の効果を得るために、活動内容をさらに検討し改善していきたい。我々の調査では、朝食欠食の理由として、“もっと寝ていたい”“身支度など準備で忙しい”など、「時間が無い」ことを挙げている学生が多かった<sup>3)</sup>。まず、生活リズムを整えることが、学生の食生活の改善に繋がるかもしれない。

骨量低下を、女子の36%に認めた。男子は15%であったが、2013年度、我々が本学職員に対して行った骨量測定では、男性の76.9%に骨量低下を認め、女性職員の33.3%より多く、20代後半～50代までの幅広い年代で低下していた<sup>5)</sup>。骨粗鬆症・骨量低下については女性に重点を置きがちであるが、男性についても注意が必要と考えられる。また、骨量低下とBMI、入学前（高校時代）の運動習慣、朝食摂取との関係が推測された。Nagataらは、大学生男女を対象にした調査において、年齢・BMIを補正した骨密度低下のリスクとして、

男子では朝食欠食との関連に有意差があり、男女とも運動との関連が強く推測されたと報告している<sup>6)</sup>。また、若年期における骨粗鬆症予防効果のある運動時間として、Nagataらは週2時間以上<sup>6)</sup>、Ishimotoらは週10時間以上<sup>7)</sup>、Gintyらは1日1時間以上<sup>8)</sup>と報告している。骨粗鬆症予防のガイドライン<sup>9)</sup>では、若年者の一次予防として“適度な体重の維持、積極的なカルシウム摂取、荷重運動”をあげており“栄養の充足下において、少なくとも18歳以前に、時間をかけて強度の高い垂直荷重系の運動を行う事が骨粗鬆症の発症予防にもっと効果的であると推測される”と述べている。中高年については、“専門家（理学療法士ら）が管理する比較的強度の高い運動（有酸素運動・荷重運動・強度の高い筋力強化運動）は骨密度を上昇させるが、一般的には管理が難しく、自己管理による歩行運動も有効であり、一般中高年には、歩行を中心とした運動の日的実施を推奨する”と提示している。以上を踏まえると、20歳前後の大学生にける骨粗鬆症予防には、適正体重を維持し、規則正しくバランスの取れた食生活を意識し、運動習慣をなるべく継続し、歩行運動を含め日々活動性を持って過ごすよう指導することが重要であろう。

これらの生活習慣は、骨粗鬆症のみならず、高血圧・糖尿病等の生活習慣病予防にとって重要であるし、運動習慣には、認知症の予防効果があることも判明している。健康に生活し、健康に長寿を全うするために、運動習慣を含めた良好な生活習慣の維持・獲得を指導していくことは、学生の健康管理に携わっていく上で、大切な要素である。

#### 【結語】

本学の学生において、朝食欠食・運動習慣の減少といった生活習慣の悪化は依然多く認められ、骨量が低下している学生も少なくなかった。今回の調査対象学生は自主来所者であり、比較的健康意識の高い学生と思われ、学生全体の生活習慣はより悪化していると推測される。学生に対して、健康を維持するためには、食生活・運動等の毎日の基本的な生活習慣が重要であることを解りやすく伝え、実践に結びつくよう、センターとしてさらなる検討を行い、今後の活動を充実させていきたい。

#### 【文献】

- 1) 三島香津子, 中村準一, 浜本扇代, 他. 入学時健康診断からみた学生の傾向と問題点. 第40回中国・四国保健管理研究集会報告書 2010;p65-69
- 2) 三島香津子, 中村準一, 浜本扇代, 他. 健康診断からみた新入生および在学学生における月経不順の検討. 第41回中国・四国保健管理研究集会報告書 2011;p78-82
- 3) 三島香津子, 中村準一, 浜本扇代, 他. 鳥取大学における学生の食に関する実態調査. 第42回中国四国保健管理研究集会報告書 2012;p80-84
- 4) 三島香津子, 中村準一, 浜本扇代, 他. 大学院生の健康及び食生活の問題点. 第44回中国・四国保健管理研究集会報告書 2014;p59-62
- 5) 三島香津子, 中村準一. 学生および職員の骨量について. 鳥取大学保健管理センター報告書(平成25年度) No.28 2015;p38-41
- 6) K. Nagata, M. Yoshida, Y. Ishimoto, et al. Skipping breakfast and less exercise are risk factors for bone loss in young Japanese adults: a 3-year follow-up study. *J Bone Miner Metab* 2014; 32: p420-427
- 7) Y. Ishimoto, M. Yoshida, K. Nagata, et al. Consuming breakfast and exercising longer during high school increases bone mineral density in young adult men. *J Bone Miner Metab* 2013; 31: p329-336
- 8) F. Ginty, K. L. Rennie, L. Mills, et al. Positive, site-specific associations between bone mineral status, fitness, and time spent at high-impact activities in 16- to 18-year-old boys. *Bone* 2005; 36: p101-110
- 9) 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン作成委員会・編. 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2011年版. 東京・ライフサイエンス出版; 2011.

## 本学留学生に対する T-spot 検査

鳥取大学保健管理センター 三島香津子, 中村準一, 浜本扇代,  
倉光ひとみ, 小川弘二, 松原典子,  
坂本伊佐子

本学には、毎年 150~200 名程の留学生が在籍している。その殆どは、良好な健康状態で留学生生活を全うするが、過去に結核を発病したため、留学の長期間の中断や継続を断念した留学生が存在した。そこで、2014 年より、新規の留学生に対して、結核感染診断としてインターフェロン $\gamma$ 遊離試験（IGRA：Interferon Gamma Releasing Assay）を行うこととなったので、その結果について考察とともに報告する。

### 【対象と方法】

本学では、留学生健康診断は国際交流課が担当し、外部健診機関に委託し年 1 回実施している。健診項目は、春に実施している在学生定期健康診断と同様に、身長・体重、血圧・脈拍、尿検査、胸部レントゲン検査であるが、2014 年度から、結核感染診断項目として、IGRA である T-spot 検査を追加して実施した。また、T-spot 検査実施初年度のため、全ての留学生を対象とした。

ここで、IGRA の概略について述べる。結核感染の診断には、日本では従来ツベルクリン検査が用いられていたが、BCG 接種者による擬陽性や非結核性好酸菌症の暴露の影響、日本と諸外国で判定基準が異なるなどの種々の問題があることから、現在は IGRA が結核感染診断の主流となった<sup>1)</sup>。IGRA には、Quantiferon (QFT) 検査と T-spot 検査がある。いずれも、判定結果は、

陽性・判定保留・判定不可・陰性の 4 パターンである。結核に対し、陽性者は感染があり、陰性者は未感染と判断する。判定保留・判定不可の場合は、再検査が推奨されている<sup>2)</sup>。本学では、QFT 検査は採血手技が煩雑であることから、T-spot 検査を採用した。

さて、留学生健康診断結果は、全て一旦保健管理センターに返却される。その後、センターの医師が、二次健診対象者の選別を行っている。今回、胸部レントゲン検査結果については、委託機関での判定結果に従った。T-spot 検査陽性者および判定保留・不可の留学生については、独立行政医療法人鳥取医療センター呼吸器科専門医に二次検診を依頼した。二次健診にあたっては、呼吸器科専門医の指導の下で、T-spot 検査陽性者・判定保留/不可者・胸部レントゲン有所見者それぞれに対し、結果の解説と受診を勧奨する文章を作成し、結果とともに該当者に配布し、理解と同意を得た。

### 【結果】

対象の留学生（学部生・大学院生・研究生を含む）は 175 名で、うち、149 名（85.1%）が健康診断受診と同時に T-spot 検査を行った。149 名の地域別内訳を表 1・図 1 に示す。最も留学生が多い地域は東アジアであった。なお、東アジア地域は、韓国・中国・台湾、環太平洋地域は、東南アジアおよび

オーストラリアとした。

表 1. 出身地域別健康診断受診留学生

地域	受診者	占有率
東アジア	97	65%
環太平洋地域	28	19%
ヨーロッパ	2	1%
南米	3	2%
アフリカ	19	13%
計	149	100%

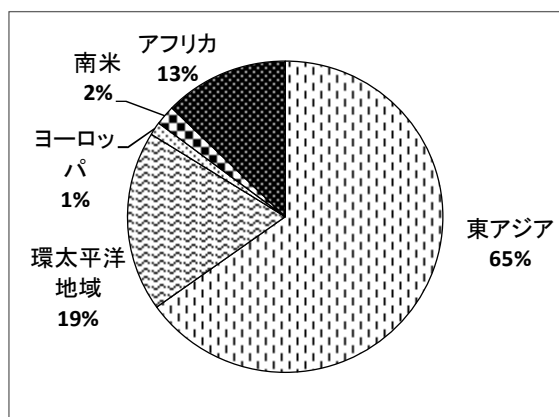


図 1. 出身地域別留学生

T-spot 検査判定結果は、陽性 17 名 (11.4%)・判定保留 7 名 (4.7%)・判定不可 (1 名 0.7%)・陰性 124 名 (83.2%) であった (表 2, 図 2)。地域別にみると、アフリカでは陽性者が 47.4% で、極めて高かった。また、南米・ヨーロッパは、母数となる留学生数は少ないが、全員陰性だった。

表 2. T-spot 検査判定結果

地域	受診者	判定結果			
		陽性	判定保留	判定不可	陰性
東アジア	97	4(4.1%)	4(4.1%)	1(1.0%)	88(90.7%)
環太平洋地域	28	4(14.3%)	2(7.1%)	0(0%)	22(78.6%)
ヨーロッパ	2	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(100%)
南米	3	0(0%)	0(0%)	0(0%)	3(100%)
アフリカ	19	9(47.4%)	1(5.3%)	0(0%)	9(47.4%)
計	149	17(11.4%)	7(4.7%)	1(0.7%)	124(83.2%)

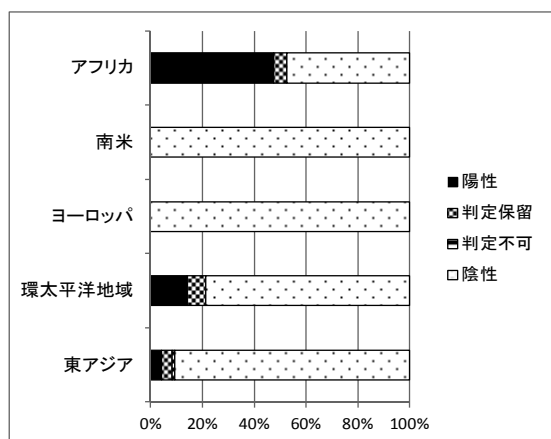


図 2. 地域別 T-spot 検査判定結果

呼吸器科専門医による二次健診の結果は、過去に結核感染・治療歴があった留学生を認めたが、現在結核を発症している、あるいは潜在性結核感染症として治療が必要な留学生は認められなかった。

また、今回、胸部レントゲン検査において異常所見を 1 名に認めたが、当該留学生は T-spot 検査結果は陰性であった。T-spot 検査陽性者と同様に、鳥取医療センター呼吸器科医師による二次健診を行ったが、過去の結核感染による所見と判明し (結核既往歴は留学時に確認されていなかった)、治療の必要性は認められなかった。

### 【考察】

今回の留学生 T-spot 検査では、陽性が 11.4%・判定保留 4.7% であった。鈴木らは、留学生に対し行った IGRA で、2010 年 QFT 検査では陽性 11%・判定保留 7%、2013 年 T-spot 検査では陽性 13.8%・判定保留 1.8% と報告しているが<sup>3)</sup>、今回の我々の結果もほぼ同様の値であった。また、本学では、医学部学生に対して毎年 IGRA 検査を実施しているが、平成 18 年～25 年の平均結果は、陰性 96.5%、陽性 1%、判定保留・不可は 2.5% の結果であった<sup>4)</sup>。医学部生の値

を日本人学生の値とみなすと、留学生は明らかに陽性率が高かった。

日本結核病予防学会は、「インターフェロニンγ使用指針」の中で、IGRAの適用基準として、①接触者健診、②医療従事者の健康管理、③発病危険が大きい患者および免疫抑制状態にある患者の健康管理、④活動性結核の補助診断、を挙げている<sup>2)</sup>。本学で行っているT-spot検査は、医学部学生は②に該当する。留学生は、上記にかならずしもあてはまらない。が、WHO（World Health Organization；世界保健機構）は、全世界の結核発症者の80%を占める22カ国を結核高負担国とし、さらに推定罹患率が高い国・地域を併せて高蔓延国としているが<sup>5)</sup>、留学生の多数は、これらの国々に該当する東アジア・東南アジア・アフリカからの留学生である（表1・図1）。また、結核罹患率（人口10万対）は、日本は14.4（2015年）<sup>6)</sup>に対しアフリカは330・東南アジア286（2014年）<sup>5)</sup>と著しく高い。国内における調査でも、2013年新登録結核患者に占める外国人の割合は、全体では5.4%だが、20代では42.7%であった<sup>7)</sup>。そして、留学生が属する世代の15~19歳・20~24歳・25~29歳の外国人結核患者の職業分類は、生徒・学生が、69%・50%・30%を占めていた<sup>7)</sup>。これらのことから、留学生は、国内在住の日本人学生に比べて、結核感染率・発症リスクとも高く、留学生の健康管理において、IGRAは、適用を考慮する必要性の高い検査と考えている。

また、潜在性結核（LTBI）の治療適用に際しては、1) 感染・発症の危険度、2) 感染診断、3) 胸部画像診断、4) 発病した場合の影響、5) 副反応出現の可能性、6) 治

療完了の見込み、以上6点を総合的に判断することが示されている<sup>8)</sup>。本学では、呼吸器科専門医に二次検査を依頼し、幸い、発病者・LTBI治療の必要性がある学生はいずれも認めなかった。が、過去には結核を発病した留学生が数名有り、本人の留学生生活のみならず、交流を持った他機関にも二次健診等の影響を及ぼした経緯あった。本学は地域的に、夏は高温多湿・冬は豪雪となる山陰地方にあり、留学生の母国とは著しく環境が異なっている。不慣れな留学生生活の中で、体調を崩し発病の危険性が高まる可能性もある。本来であれば、留学生生活を開始する前に、健康状態を正確に把握しておくことが必要であるが、担当部署で確認が十分に出来ていないのが現状のようである。それぞれの国の社会的事情や、様々な留学経路など、一律で正確な健康状態の確認には困難を要するのかもしれないが、結核以外にも、中東呼吸器感染症や新型インフルエンザなど、輸入感染症は、ひとたび感染・発症すると、本人に対する重大な健康被害と、学内のみならず社会に著しい影響を及ぼす。これらの事を十分認識した上で、今後、より正確な留学前の健康状態の確認に努め、留学後は継続して健康管理を行って行く必要がある。

グローバル化により、結核高蔓延国を含めた諸外国を行き来する人の数及び機会は、さらに増加するであろう。結核を含めた感染症の予防に、保健管理センターのみならず、大学を含めた社会全体として、継続して取り組んでいく必要がある。

謝辞：二次健診にご協力頂いた、独立行政法人鳥取医療センター山本光信先生に深謝いたします。

【文献】

- 1) 松本 智成. IGRA による結核診断. 日内会誌 2013 ; 102 : 2888-2901
- 2) 日本結核病学会予防委員会. インターフェロン $\gamma$ 遊離試験使用指針. 結核 2014 ; 89 : 717-725
- 3) 鈴木 眞理. GRIPS における外国人留学生の健康状態. CAMPUS HEALTH 2014 ; 51 : 131-133
- 4) 松原 典子, 三島 香津子, 中村 準一, 他. 医学部結核診断検査の現状と課題. 第 44 回中国四国保健管理研究集会報告書 2014 ; 59-62
- 5) World Health Organization 編. GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT
- 6) 厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp>) 平成 27 年度結核登録者情報調査年報集計結果について
- 7) 結核研究所疫学情報センター. 結核年報 2013(1)結核発生動向概況・外国生まれ結核. 結核 2015 ; 90 : 437-443
- 8) 日本結核病学会予防委員会・治療委員会. 潜在性結核感染症治療指針. 結核 2013 ; 88 : 497-512



### Ⅲ 保健管理センターの 業務内容その他

## 1. 保健管理センターの業務内容について

- (1) 健康診断の実施
  - ① 新入生健康診断（X線間接撮影，尿検査，身体計測，血圧測定，問診）
  - ② 定期健康診断（X線間接撮影，尿検査，身体計測，血圧測定，内科診察）
  - ③ 特別健康診断（外国人留学生，有機溶剤取扱者，放射線業務従事者，医学部結核検査等）
- (2) 健康診断後の事後措置
  - ① 再検査
  - ② 生活指導
  - ③ 診察および必要に応じて医療機関への紹介
- (3) 学生および職員健康相談業務の実施
  - ① 身体的健康相談
  - ② 精神的健康相談（カウンセリング）
  - ③ 健康の保持増進のための健康相談
- (4) 応急処置
- (5) 健康に関する講演会等の企画及び実施
- (6) 健康診断証明書の発行
- (7) 感染症予防教育や流行時の対応などの感染症対策
- (8) 保健管理に関する調査研究
- (9) 環境衛生の維持、改善に関すること
- (10) 健康管理記録の管理
- (11) その他保健に関する専門的業務

### 鳥取大学保健管理センター規則第二条

- a. 健康診断に関すること。
- b. 健康相談及び救急処置に関すること。
- c. 健康診断の結果に基づく健康の保持増進についての必要な指導に関すること。
- d. 環境衛生の維持、改善及び感染症の予防についての指導援助に関すること。
- e. 保健管理の充実向上のための調査研究に関すること。
- f. その他健康の保持増進について、必要な専門的業務に関すること。

## 2. 保健管理センター関係職員

平成27年度

職 名	氏 名	備 考
所 長 (教 授)	中 村 準 一	精神健康相談
准 教 授	三 島 香津子	健康相談 (内科, その他)
保 健 師	浜 本 扇 代	健康相談一般、応急処置
看 護 師	倉 光 ひとみ	〃
看 護 師 (米子地区)	松 原 典 子	〃
〃 ( 〃 )	坂 本 伊佐子	〃
特任教員 ( 〃 )	西 川 健 一	健康相談 (内科, その他)
事 務 職 員	柴 田 栄 治	事務 (主事・生活支援課長)
〃	小 谷 光 章	〃 (生活支援課)
〃	小 川 弘 二	〃 ( 〃 )
学 校 医	吉 岡 千 尋	健康相談 (精神健康相談)
〃	堀 内 正 人	〃 (内科, その他)
臨床心理士	浦 木 恵 子	カウンセリング
学 校 医 (米子地区)	吉 岡 伸 一	健康相談 (精神健康相談)
〃 ( 〃 )	横 山 勝 利	〃 ( 〃 )
〃 ( 〃 )	山 梨 豪 彦	〃 ( 〃 )
臨床心理士 (米子地区)	草 野 知 子	カウンセリング

### 3. 健康相談日程表

#### <鳥取地区の健康相談>

	担当	受付時間	備考
医師による 健康相談	三島香津子(神経内科医)	10:00～11:30 14:00～16:00	一般診察 (*木曜日は休診) 原則として予約制
応急処置 健康相談	保健師, 看護師	8:30～17:00	健康相談一般 けが, 急病等の応急処置
学校医による 健康相談	堀内正人(内科医)	毎週金曜日 13:15～14:00	一般診察 原則として予約制 *夏季休暇など学校休業期間中は休みます
心の相談	中村準一 (保健管理センター所長)	毎週月・火・木 金曜日 10:00～11:00 13:00～16:00	原則として予約制
	吉岡千尋 (学校医, 精神科医)	毎週水曜日 15:00～16:30	原則として予約制 *夏季休暇など学校休業期間中は休止
	浦木恵子 (カウンセラー・臨床心理士)	毎週火・木・金 曜日 9:00～11:00 13:00～16:00	原則として予約制

#### <米子地区の健康相談>

	担当	受付時間	備考
応急処置 健康相談	看護師	9:00～17:00	健康相談一般 けが, 急病等の応急処置
学校医による 健康相談	西川健一 (内科医)	12:00～13:00	一般診察 原則として予約制
学校医による 心の相談	吉岡伸一 (精神科医)	毎月第3木曜日 12:00～13:00	原則として予約制 *夏季休暇など学校休業期間中は休止
	横山勝利 (精神科医)	毎月第3水曜日 12:00～13:00	
	山梨豪彦 (精神科医)	毎月第1水曜日 12:00～13:00	
心の相談	中村準一 (保健管理センター所長)	第4火曜日 12:00～14:00	原則として予約制
	草野知子 (カウンセラー・臨床心理士)	毎週火・金曜日 13:00～17:00	原則として予約制

## 4. 保健管理センター運営委員

[平成27年度]

保健管理センター	中村 準一、三島 香津子		
地域学部	関 耕二	農学部	佐野 淳之
医学部	吉岡 伸一	総務企画部	瀬戸川 浩
工学研究科	小畑 良洋	学生部	田中英行

## 5. 鳥取大学保健管理センター規則

### (趣 旨)

第1条 この規則は、鳥取大学学則(平成16年鳥取大学規則第55号)第14条第2項の規定に基づき、鳥取大学保健管理センター(以下「保健管理センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### (目 的)

第1条の2 保健管理センターは、鳥取大学(以下「本学」という。)における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的とする。

### (業 務)

第2条 保健管理センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 健康診断に関すること。
- 二 健康相談及び救急処置に関すること。
- 三 健康診断の結果に基づく健康の保持増進についての必要な指導に関すること。
- 四 環境衛生の維持、改善及び感染症の予防についての指導援助に関すること。
- 五 保健管理の充実向上のための調査研究に関すること。
- 六 その他健康の保持増進について、必要な専門的業務に関すること。

### (組 織)

第3条 保健管理センターに次の職員を置く。

- 一 所長
- 二 教員
- 三 学校医又はカウンセラー
- 四 主事
- 五 技術職員

### (所 長)

第4条 所長は、保健管理センターの責任者としてその業務を掌理する。

2 所長の選考は、鳥取大学保健管理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の推薦に基づき、学長が行う。

### (教 員)

第5条 教員は、保健管理センターの専門的業務を行う。

2 教員の選考は、鳥取大学教員選考基準(昭和31年鳥取大学規則第7号)及び鳥取大学教員選考に関する基本方針(平成14年4月4日評議会承認)によるほか、運営委員会の推薦に基づき、鳥取大学学生生活支援委員会の議を経て、学長が行う。

### (学校医等)

第6条 学校医は、学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)第22条に基づく職務に従事する。

2 主事は、学生部生活支援課長をもって充て、所長の命を受けて事務を処理する。

3 技術職員は、保健管理センターの技術に関する業務に従事する。

### (運営委員会)

第7条 保健管理センターに運営委員会を置く。

第8条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 中期目標・計画に関すること。
- 二 組織の設置又は廃止に関すること。
- 三 管理運営及び業務に関すること。
- 四 評価に関すること。
- 五 所長候補者の推薦に関すること。
- 六 専任教員の推薦に関すること。
- 七 その他所長が必要と認める事項

第9条 運営委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 保健管理センターの所長及び教員
- 二 地域学部、医学部、農学部(連合農学研究科及び乾燥地研究センターを含む。)及び工学研究科から選出された教員各1人
- 三 総務企画部長及び学生部長

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 運営委員会に委員長を置き、所長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

第11条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって開くものとする。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 前2項の規定にかかわらず、保健管理センターの人事に関する事項を審議する場合には、委員の3分の2以上の出席をもって決する。

第12条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

### (事務)

第13条 運営委員会の事務は、学生部生活支援課において処理する。

### (雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、保健管理センターに関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、所長が定める。

### (分室)

第15条 保健管理センターに、必要があるときは分室を置くことができる。

2 分室の設置、組織等について必要な事項は、運営委員会の議を経て学長が定める。

### 附 則

1 この規則は、昭和56年10月14日から施行する。

2 この規則施行の際、鳥取大学保健管理センター規則(昭和45年鳥取大学規則第2号)第5条第2号の規定

による委員である者は、当該委員としての任期に相当する期間が満了する日までの間、引続きこの規則第6条第1項第2号に規定する委員となるものとする。

- 3 この規則第6条第1項第2号の規定により新たに委員となる者の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、昭和57年3月31日までとする。

附 則(平成4年3月6日鳥取大学規則第6号)

この規則は、平成4年3月6日から施行する。

附 則(平成7年3月8日鳥取大学規則第21号)

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則(平成9年2月12日鳥取大学規則第4号)

この規則は、平成9年2月12日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

附 則(平成10年4月9日鳥取大学規則第17号)

この規則は、平成10年4月9日から施行する。

附 則(平成11年9月8日鳥取大学規則第54号)

この規則は、平成11年10月1日から施行する。

附 則(平成12年3月8日鳥取大学規則第14号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年9月12日鳥取大学規則第65号)

この規則は、平成13年9月12日から施行する。

附 則(平成14年3月13日鳥取大学規則第29号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成16年4月9日鳥取大学規則第84号)

- 1 この規則は、平成16年4月9日から施行し、改正後の鳥取大学保健管理センター規則の規定は、平成16年4月1日から適用する。

- 2 鳥取大学保健管理センター所長候補者選考規則(昭和59年鳥取大学規則第2号)及び鳥取大学保健管理センター教員選考規則(昭和59年鳥取大学規則第3号)は、廃止する。

附 則(平成18年12月14日鳥取大学規則第146号)

この規則は、平成18年12月14日から施行する。

附 則(平成20年5月21日鳥取大学規則第72号)

この規則は、平成20年5月21日から施行し、改正後の鳥取大学保健管理センター規則の規定は、平成20年4月1日から適用する。

附 則(平成21年6月22日鳥取大学規則第66号)

この規則は、平成21年6月22日から施行し、改正後の鳥取大学保健管理センター規則の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則(平成23年6月10日鳥取大学規則第57号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成26年11月18日鳥取大学規則第79号)

この規則は、平成26年11月18日から施行する。

附 則(平成27年3月24日鳥取大学規則第28号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

## 鳥取大学保健管理センター米子分室細則

第1条 鳥取大学保健管理センター規則(昭和56年鳥取大学規則第21号)第15条の規定に基づき、鳥取大学保健管理センター米子分室(以下「分室」という。)を置く。

第2条 分室は、医学部における健康相談及びこれに関する業務を行う。

第3条 分室に学校医及びその他必要な職員を置く。

第4条 分室の事務は、医学部事務部において処理する。

### 附 則

この細則は、昭和50年6月1日から施行する。

附 則(昭和56年10月14日鳥取大学規則第22号)

この細則は、昭和56年10月14日から施行する。

附 則(平成12年3月8日鳥取大学規則第15号)

この細則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成14年3月29日鳥取大学規則第35号)

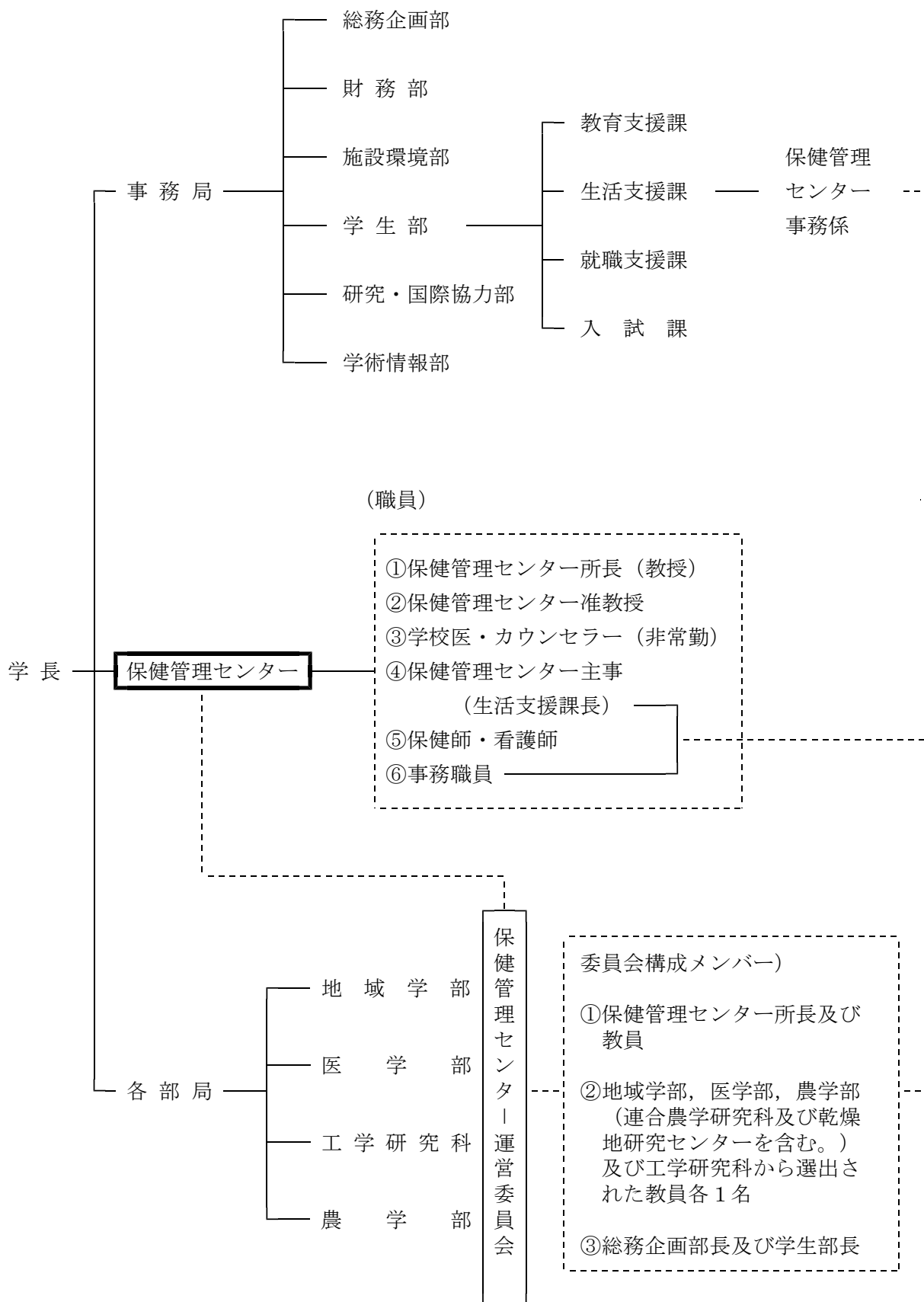
この細則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成16年4月9日鳥取大学規則第143号)

この細則は、平成16年4月9日から施行し、平成16年4月1日から適用する。



## 6. 保健管理センター機構図



## 7. 沿革

昭和44年4月1日	国立学校設置法施行規則の一部改正により、鳥取大学保健管理センター設置	
〃	事務取扱いに三島良兼（学生部長）発令	
昭和45年3月31日	保健管理センターの竣工 R C 1 設置面積 266m <sup>2</sup>	
昭和46年4月1日	初代所長（併）に多田 学助教授（教育学部）就任	～昭和48年 2月28日
〃	看護婦 長畑鈴子 着任	～昭和50年 3月31日
〃	看護婦 影山雅子 着任	～昭和53年 3月31日
昭和46年7月1日	講師 落合 潮 着任	～昭和50年 3月31日
昭和48年3月1日	所長（併）に高木 篤教授（医学部）就任	～昭和50年 2月28日
昭和48年3月20日	助教授 吉岡千尋 着任	
昭和50年3月1日	所長（併）に清水久太郎教授（医学部）就任	～昭和54年 2月28日
昭和50年4月1日	保健婦 久住喜代子 着任	
昭和50年6月1日	鳥取大学保健管理センター規則に基づき、保健管理センター米子分室設置	
昭和50年7月1日	講師 田中宏尚 着任	
昭和54年3月1日	所長（併）に原田道義教授（医学部）就任	～昭和56年 2月28日
昭和56年3月1日	所長（併）に齋藤義一教授（医学部）就任	～昭和58年 2月28日
昭和56年12月1日	助教授 吉岡千尋 教授に昇任	
昭和58年3月1日	所長（併）に渡邊嶺男教授（医学部）就任	～昭和59年 3月12日
昭和59年3月12日	所長事務取扱いに高木 篤（学長）発令	
昭和59年6月1日	所長（併）に前山 巖教授（医学部）就任	～昭和61年 5月31日
昭和60年7月1日	講師 田中宏尚 助教授に昇任	～平成 8年 3月31日
昭和61年6月1日	所長（併）に吉岡千尋教授（保健管理センター）就任	～昭和63年 5月15日
昭和63年4月1日	看護婦 澤田由美子 着任	～平成 3年 3月31日
昭和63年5月16日	教授 石飛和幸 着任	～平成17年 3月31日
〃	所長（併）に石飛和幸教授（保健管理センター）就任	～平成17年 3月31日
平成 3年4月1日	看護婦 飯田啓子 着任	～平成25年 3月31日
平成 7年3月31日	歯科診療廃止	
平成 8年4月1日	助教授 中村準一 着任	
平成11年12月21日	X線装置廃止	
平成13年 3月13日	保健管理センターの増・改修 増築面積 77m <sup>2</sup>	
平成17年 4月 1日	助教授 中村準一 教授に昇任	
〃	所長（併）に中村準一教授（保健管理センター）就任	
〃	助教授 井岸 正 着任	～平成19年 9月29日
平成17年 6月30日	看護師 松原典子 着任	
平成20年 4月 1日	保健師 浜本扇代 着任	
平成22年 4月 1日	准教授 三島香津子 着任	
平成22年 4月 1日	特任教員 西川健一 就任	
平成25年 4月 1日	看護師 谷口昌代 着任	～平成26年 1月31日
平成25年 8月 1日	看護師 坂本伊佐子 着任	
平成26年 2月 1日	看護師 倉光ひとみ 着任	

保健管理センター年報 NO. 30  
(平成27年度)

平成29年(2017年) 3月発行

発行 鳥取大学保健管理センター  
〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101  
TEL 0857-31-5065  
FAX 0857-31-5565